WASON
HQ
1164
C94

Mar. 2
1889
no 151

女學雜誌

一冊六錢　　版權所有

當府内無郵税　　各土曜日出版

明治廿二年（第百五拾壹號）三月二日發

社説
女子は婚姻せざる可らざる乎

論説
英米女子高等教育大勢（其三）（け、うさき）

批評
竹柏園女史の「胸の思ひ」（不知庵主人）

叢話
森有禮君の爲に泣けよ○貧女衣服を縫ふ○子を教ゆる忍耐なれ○婦人の許○小兒の姆の事（梶夫人）

佳傳
破鏡談第四回（知己を得て友人を失なふ）

小説
理想紳士第五回（月の舍しのぶ）

寄書
千松閣偶成（湘烟女史）○柴山子社中（津田次郎）

新報
下田歌子女史の演説○日本の男女人口○東京府會の美なる議決○女學雜誌に寄す○宣教師女學校の國文學○注意せよ懼るべき一大事○嗚呼キン子アド男爵夫人は死せり○萬國禁酒會議○都の花の小説家○皇女常宮の御移殿○其他數件

外報
マダカスカルの女王○サウリスベリー侯演說○清國皇帝の婚姻○女子佛國學士會院の賞牌を得

附錄
娼妓の事に關する府政の改革（伴直之助）
天下の女子（スピンナン）

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 151. March 2nd, 1889.

EDITORIAL:— Protestant "Superfluous Women."
LEADING ARTICLES:— The Movement of Woman's High Education in Western Countries, by Mr. K. Usaki.
CRITICAL NOTES:— "The Secrets of Heart."
MISCELLANIES:— "Let us Lament the Death of Viscount Mori." "Poor Women doing Needle-work for their living." "Be Patient in Educating the Children." "Criticism made by Fools." "On Nursing," by Mrs. W. C. Kaji.
BIOGRAPHIES:— "Breaking the Fetters."
NOVELS:— "The Ideal Beau."
CORRESPONDENCES.
GENERAL NEWS.
SUPPLEMENTS:— Woman and Mohammedanism, by Dr. Spinner. Abolition of the Contagious Disease Hospital, by Mr. N. Bau.

女學雜誌は日本の女性を代表す、日本の女性は女學雜誌の如くあり、亦如くなるべし、亦如くならざる可らず。日本の女性を知らんと欲せば女學雜誌を見よ、之に愛せられんと欲せば女學雜誌に愛せられよ。女學雜誌は日本婦人の分身にして、亦た其の敎師、案內者、相談相手たるなり。

●珊瑚の珠

一日本にて女の齒を染る事は婚禮定りての事也黑色は變らざる故に夫婦の間もかはるまじとの義也上代には女のみに不限武人も齒を黑色にす忠臣二君に仕へずと云ふ心あり尋用に見へたり。

一女の名に子の字を付ると上代よりのとなり日本記欽明天皇記にいふ遣ニ靑海夫人勾子一又云春日々狐臣女曰ニ糠子一と見えたり女に子の字を付るとの始あるべし。(貞丈雜記)

一ある人申けるは肛女の男子か女子かを知る俗傳に婦人の年と夫の年との數を合せて三つに割り不盡あるは極めて男子なり割切れるは女子あり產月としを越れば一つを其數の中に加へて之を除するなど、固より信ず可らず。

一生母にあらずして子を養育する母をゝ、母といひ生子にあらずして養育を受る子をゝ、子といふゝ、は養育の義にて小兒に乳を飮付する今の乳母の事なりこれを古へ乳付けとす東鑑に武衛(賴朝卿をいふ)乳付けの靑女を召され摩々と號すとあるにて知るべしこれより轉稱して小兒の乳を飮むをゝ、と云ひ今にては小兒の飯を喫するをゝ、と云ふに至れり。(善庵隨筆)

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

娼妓の制に關する府政の改革

作 直 之 助

中等の事予輩之れを言ふを厭ふ、况んや公然論題を掲けて之れを論するおや、然れとも我か社會に於て既に其の事實ある以上は、飽くまで之れを論して以て病獘を杜絶するとを勉むるは、當さに予輩の任なるべし、殊に予輩か年來希望せし宿志の大部分か、今二十二年度の通常區部會に於て、行はれたるに際し、予輩豈に我か府會議員に對して一言の謝辭なきを得んや、我か府會議員は紳士として適當せる議決を爲したるまでにて別に賞むるにも足らずとせん乎、予輩は先づ其の顛末を報告し更らに進みて、此の如き意見の各府縣會よりも、普ねく行はれんとを希望せざる可からざるなり、

斯く云ふ自分は蓋し廢娼論者の率先者なるべし、諸君へ必らず承諾せらるゝならん、明治十八九年の頃、世の嘲笑を顧みずして、廢娼の議を唱へたるものは決して雷同的論者にあらざるとを、左らばさて予輩は方法を問はず、背慣をも許さず、無闇矢鱈らに、「おッ廢(はい)せ」と云ふ「タッツ子」流儀の論者にもあらざるなり、唯ゞ機到り時來らば、權利の許す限りは、除さず改革を實行せんと欲するのみ、而して今は實に其の時なり、其の機なり、宜しく清潔廉白なる義人君子の力を致すべき佳節なりと信ず」何を以て之を云ふ乎、請ふ少しく之を述べん、抑ゞ各府縣の政治に固着したる病獘の中、賦金の制より甚しきはなく、此の税より苦々しきものはあらじ、賦金とは何ぞ、娼妓貸坐敷、引手茶屋の三營業者より取り立つる所の賦課金なり然れども此醜税たる中々馬鹿ゞ出來ぬ程の巨額なれば（各府縣を合すれは凡そ壹百萬圓）、各地方官をして之れが改革に着手するとを躊躇せしめ、又た此の税の支收に就ては政府若くは地方官の直轄する所にして、府縣會議員其他民間人士の一指をも加ふべからざる制度なりしかば、荏苒背慣を追ふて今日まで存在せしなり、然かるに幸なるは今二十二年度よりは、之を以て府縣會の議決するとになりしを以て、之を如何するも議員の意見によるとゝはなれり。（之を認可するの權は政府にあれとも）、是れ則ち予輩か此の改革に關して時來り機熟せりと云ふ以所なり、

我か東京府々會議員の機敏なる遂に此の好機を失ふとをせざりき、則ち今二十二年度の區部會に於ては、支出の部にて黴毒病院費を全廢し、收入の部にて賦金の大半を減却せり、従來各府縣廳の政略によれは、政府は娼妓の黴毒を檢査し、又た之れを治探するの責任あるものと認められたるか如し、既に檢査と探治との責任ある以上は、

之に對するの費用を徴收するは決して不適當の處爲にあらず」と(然し實際は賦金を警察機密即ち探偵費に充てられたりとの事隨分に入益しき一の問題なり)是に於て乎賦金なるもの起り、年月を經るに從ひて、地方税源の一とはなれり、故に今の時に當りて賦金即ち醜税の制を廢止せんと欲せば、之れが費途即ち娼妓病院の費途を改革せざるべからざるなり、我か東京府區部會は、惜くも此の順序を追ふて議決せられたるか如し、抑ゝ先きに東京府廳か二十二年度の議案を、各議員に交付さるゝや、理事者は黴毒病院費(區郡聯帶支辨)として金貳萬參千四百四拾五圓を請求し、而して賦金即ち貸坐敷、娼妓、引手茶屋より金拾萬五千〇四拾貳圓(區部即ち芳原洲崎のみにて)を徴收するの計畫なりし、然かるに先きに府會は地方廳か市政の一として斯ゝる醜業者の事に干かるべき理なしと認め、該病院を各遊廓の自治に任せ、此の醜案を府會の議案より全く取り去り、又た收入の部にては賦金(區部)の項に於て娼妓賦金貳萬七千餘圓を全廢し、貸坐敷賦金七萬貳千餘圓を金貳萬六千餘圓に減し、引手茶屋賦金五千貳百餘圓を金參千百餘圓に減せられたり、予輩之れを聞て同論者諸君と倶に欣喜を共にせんと欲するなり、予輩は先きに思へらく、賦金は東京府下に於て隨分巨額を占むるの收入なり、殊に地租制は極度まで徴收し、其の他增税日に甚むの今日に於て、彼の賦金に就ては如何に處分せらるゝや」と然かるに此の府政上、財政上に大困難あるに拘はらず、醜税たるの故を以て、巨額の收入を斷然委棄せられたるは、實に衆の爲めに擧けられたる議員たり、全國府縣會の模範たる東京府會議員たるに恥ぢざるの所爲なりと信ずるなり然り而して東京の郡部會は如何議決さるべきや、郡部も亦た區部會と同一なる美擧を斷行せらるゝは、蓋し近日の内にあらん、予輩請ふ其議決を待ちて後ち少しく論ずる所あらん。

發行所　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

編輯兼發行者　東京京橋區日吉町八番地寄留　巖本善治

印刷者　東京芝區源助町十一番地寄留　[illegible]田[illegible]

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第百五十一號　明治二十二年三月二日發兌

社説

○女子は婚姻せざる可らざる乎。

論者ありて曰く、余が眼中には母妻ありて女子なし、否な女子なきに非ずと雖ども母妻たらざるの女子は之を度外視すべき理由あるなり、何となれば凡そ天下の女子は皆な人の妻たらざる可らず、已に妻たらば又母たらざる者は蓋し鮮少からん、若し夫れ人の妻たる事を為さゝる尼女は世捨て人のみ、縦令世捨て人に非ざるも社會は其人を變生男子と見て差支へなければ也」と、斯の如き議論を為すもの、若し一人二人ならば吾人は耳にも留めざるべし、好し堂々たる帝國大學の卒業生にして何事にも某の學士と肩書せらるゝ立派なる學士の議論なりとするも、若し一人二人の學士の言わるゝとならば吾人は決して耳にも留めざるべし、然るに悲しひ哉、日本の多くの男子は多くは如此くに考ふる也、考へて而して此の論者の如くに論ずる者既に尠なからず、未だ論ぜずと雖ども既に如此くに考ふるの人は恐らく更らに尠なからざるべし、此に至りて一辨を為すは實に吾人が責め也。

漠然として曰く、女子は婚姻せざる可らずと、之を聞くもの亦た漠然として曰くハ、然り女子は婚姻せざる可らずと、只だ為ざる可らずと云ふ、而して其の為ざる可らざるの理由を辨ぜず、噫彼等は只だ漠然として漫に無責任の言を吐く者なり。試みに問わん、女子は何故に婚姻せざる可らざる乎、更に問わん、女子は何故に婚姻せざる可らずと注意せられねば成らぬ乎。」凡そ一人にて婚姻するものはあるまじ、故に若し女子に向つて婚姻せざる可らずと言わば同時に亦男子に向つて婚姻せざる可らずと云ふ者と覺悟すべし、然らば則はち天下の總ての男子女子は皆な悉とく婚姻せざる可らざる乎、吾人不肖にして天意を知らざるが故に如此き大胆なる議問に向つては未だ直答するの勇を具せず、然れども事實の上に於ては能く之に向つて一言の答を為すを得べし、即はち敢て為べし為べからずとは言ふヿを得ざれ、確かに為すヿを得べし為すヿを得可らずとは言ひ能うもの也。然らば問はん、天下の男子女子は皆な悉とく婚姻せざる可らざる乎、否な悉とく婚姻するヿを得べきや何如ん。若し婚姻するヿを得べしと云はゝ、男女は必らず同數にてあらざる可らず、苟くも儒敎回々敎モルモン敎の敎ゆる所ろを

不可とし、伉儷は必ならず一夫一婦なるを善徳とすると云はゞ、天下の惣ての男女が一夫一婦の伉儷を結ばんとするには即はち天下の男女が同數ならざる可らざるは明白の理にあらずや。然るに生理上に於ても經世上に於ても統計上に於ても吾人は遂に男女の同數なることを發見する能はず、男兒は女兒よりも多く生るゝなり、然れども夫よりも多く男兒は女兒よりも多く死するなり、好し殆んど同じき程に成長したりとするも、男子は外　出すること多し、旅行すること多し、險を侵すこと多し、變化に會すること多し、憂苦に罹ること多し、爭擊すること多し、戰爭に臨むこと多し、一言するに男子は女子よりも死地に近づくことの多きもの也、況んや酒を飲むもの煙草を喫するもの暴食するもの放蕩するもの婬亂なるものは尤も男子に多し、一言するに男子は女子よりも毒惡に近づくこと多きもの也、故に之を生理上に考がへ、又た之を經世上に考ふるに、男子は必らずや女子よりも多く死せざる可らず、啻に死することの多きのみにあらず、其の幼なる時に於て早く死するものも男子に多く、其の長じて后ちに於て死することの早きものも亦た男子に多し、故に男子の世に存するは或は短かきか或は少なきかの一に居らん、必らずや到底女子と同數に於て世に存することを得ざる者也。若夫れ既に男女ろの數を同ふせずと云はゞ必らずや男か女か其一方に於て終に婚せざるものなくんばあらず、而して女子の數男子よりも多しと云はゞ其の婚せずして獨捿する者の亦　女性に多かるべきは論を待たざることにあらずや。之を以て普魯士亞には百五十萬の婚せざる女子あり、之を以てバーデン一國には女子惣數の三割半は嫁せずして獨立せり、之を以て伊太利には過多の女子に向つて尼院を備ふることを必要とせり、之を以て英國には二十才以上の女子惣數に於て其の一百人中の四十三人は悉とく婚せざるなり、之を以て我日本の男子は殆んど悉とく婚姻しつるに女性には寡婦となりて獨居するものあり師匠藝人と爲りて獨居するものあり彼の尤も卑しむべき妾藝妓娼妓と爲りて獨居するものすらある也。左れば天下の太平とならざる限り、男女の同職　業に就ざる限り、不思議なる醫方あつて眞正の偕老同穴を行はしむるに至らざる限りは、天下の男女は必らずや數を異にせざる可らず、此時に當つて如何なる男子もしくは女子の一人に向つても汝は必らず婚姻せざる可らずと云ふを得ず、何となれば其一人は或は當に相手なかるべきの人たるやを知らざれば也。然れども假令ひ若し之を同數にてあると

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

するも凡そ上帝にあらざる限りハ倘ほ人に向つて汝は婚姻せざる可らずと云ふの權なし、然るを況んや既でに其の相手とすべきもの、存せざるとあるに於てをや」。然りと雖ども此に大胆なる人あり、若し惣ての天意を洞見し得たりとして敢て人に向つて婚姻すべしと云ふの權力を有せりと假定せば、此の人が先づ尤も正當に、向つて言ひ得べきは即ち男子に向つて言ふとにあらざる可らず、何んとあれば女子の數は多く男子の數は少くして男子の擇ぶ所ろには不自由あらざるべければ也。然るを彼は未だ男子に向つて言ひしとなし而して突として女子に向つて、其の相手のなかるべき女子に向つて、惣て汝ぢは皆な婚姻せざる可らずと言ふ、事理を顛倒すると亦た極まるにあらずや。

故に若し人に向つて、汝ぢ婚姻せざる可らずと言ふとを得ば、此の如くに言ふものは先づ男子に向つて言はざる可らず、よし假令ひ先づ男子に向つて言はざるとするも、彼が女子に向つて勸告するの言語は亦固より男子に向つて勸告するに用ゆべし、否な啻に用ゆべきのみにあらず用ゆるに更に適切ならざる可らず、左れば如此き論者は亦た左の如くに勸告するとを猶豫せざるものならん、云く、

余が眼中には父夫ありて男子なし、否な男子なきに非ずと雖ども父夫たらざるの男子は之を度外視すべき理由ある也、何となれば天下の男子は皆な女子の夫たらざる可らず、已に夫たらば又父たらざるものは盖し鮮少からん、若し夫れ人の父たるとを爲さゞる坊主は世捨て人のみ、縱令世捨て人に非ざるも社會は其人を變生女子と見て差支へなければなり。

嗚呼天下何の處ろにか如此き暴論あらんや、論者は云く、父たり夫たらざるの男子は之を度外視すべき理由ありと、果して然らば論者はポーロを度外視するもの也、アダムスミスを度外視するもの也、ウイリアムピットを度外視するもの也、カントを度外視するもの也、スペンサーを度外視するもの也、然らば則はち古今第一流の地位に立てる哲學者經濟學者政事家傳道者を度外視する論者の眼中とは抑も何如なる眼中なりや。

然りと雖ども茲に成立つ可らざる一種の論理法ありと假定せよ、而して之に據つて此の博學なる論者は如此く言ひ能うと假定せよ、云く余が眼中には父たり夫たらざるの男子はあり、然し乍ら余が眼中には母たり妻たらざるの女子はなし、何んと言ふても母妻たらざるの女子は之を度外視すべき理由ある

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

也、と。果して然らば、五十年前すでに今の監獄協會員府會議員等の論ずる所ろを實行せんとて、彼の「天の使ひの戰ひたる途方に於て、光明を導き入れんとして暗黑の魔力と戰ひ」遂に牢獄の内に大ひなる改良を行ひつるサラマーテンは悲しくも度外視さるべきもの也。同じく四十年間牢獄の改良に從事し、大に輿論を振起し、四五の懲治院を新立し、三度び印度に渡行したるマリーカーペンターも亦度外視さるべきもの也。妙齡にして怒濤を横ぎり、砲煙覆ひ鮮血流るゝの戰塲に渡り、彈丸銃聲霰の如くに騒がしき間に、傷を包み膿を啜りて病者傷者を看したるフロレンスナイチンゲールも亦度外視さるべきもの也。徹夜眠らず、通宵傍はらに侍べつて共に天文を測り、兄をして遂に第一位の天文學者たらしめ、亦兄の子をして父に肖るの理學者たらしめたるカロリンハーシエルも亦度外視さるべきもの也。痛困に堪へ、貧苦に打勝ち、艱難にます〱玉化していよ〱其の熱腸と靈心とを高くし、一枝の筆能く人情の僞りを穿ち、數篇の小説以て能く世人が道念義心を煥發せしめたるチヤーロツテブロンテも亦度外視さるべきもの也。殆んど破天荒の卓見を以て麗文を草し、人類敎育の觀念紙上に滿々として、人を動かすと万軍よりも力らあり、其の人世希望の論、其の女子敎育の論、及び其の數多の慈善なる文章及び多年の慈善ある敎育、を遺しつるハンナモアも亦た度外視さるべきものあり。初めて米國に女子大學の基礎を確立し、マウントホリヨークの巓き聖氣今に活々として今日尙有力ある數多の女宣敎師を送り出す昔し敬虔ありし熱心なりし信仰尤も厚かりしメレーライチンも亦度外視さるべき者也。其他初めて女醫とありけるブラツクエルも、初めて万國の會頭となりけるブライトもウイルラルドも、彼が如く社會改良に熱心なるコツブも、彼が如く赤十字業に熱心なるクラ、パートンも、彼が如く幼稚園に熱心なるピーボデーも亦皆度外視さるべきものあり、何んとあれば、彼等は何も婚姻せざりし女子にして即はち人の妻とあり母となるとあらざりし者なれば也、彼等は世に如何なる善功大業を爲しつればとて、既に人の妻たる事を爲さゝる尼女也世捨て人あれば社會は之を變生男子と見て毫も差支へなしと云はるれば也。嗚呼女子に向つて汝ち必らず婚姻せざる可らずと云はゝ、之と同時に男子に向つて汝ち必らず婚姻せざる可らずと云ふに齊し、既に男女に向つて汝ち等必らず婚姻せざる可らずと云はゝ即はち惣ての人類に向つて汝ち等必らず婚姻せざる可ら

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

すと云ふに齊し、既に惣ての人類に向つて汝ち等必らず婚姻せざる可らずと云はゞ是れ即はち惣ての人類に向つて必婚姻の法律を布くことを得べし、吾人は希臘羅馬に於て嘗て之に似たる法律ありしを聞けり、然れども十九世紀に於て萬國公法の一ヶ條に必婚姻の律を定むべしと云ふを聞くは、實に日本帝國大學の卒業生たる法學士の論文に於てするを初めとするなり。

○婚姻は必要の事にあらざる乎

此に至りて客あり問ふて曰く、然らば人世の婚姻は必らずしも切要の事にあらざる乎と。吾人襟を正ふして答へて曰く、婚姻は人世最大事の一なり、吾人が之を重んずると實に九鼎太呂に優さる、吾人未だ天理を盡さず故に未だ人々必らずしも婚姻すべきの義務ありや否やを知らず、然りと雖ども之を至正なる人情に訴たへ、之を純潔なる愛念に問ひ、遥かに古來の人生を監がみ、遠く現世の行末を思ふに、婚姻は眞とに男女自然の情の赴むく所ろにして、恐らくは是れ天の人類に命賦する處ろあらん。此を以て初めより、吾は必らず婚せずと斷言するものは、思ふに其人未だ至誠の情念を自知し發揮したるものにあらず、シエクスピーアは云く、

"When I said I would die a bachelor, I did not think that I should live till I were married."

「余は單身にして死すべしと言ひつれ、只だ婚するの日迄生き存らうるとは定めざりし」と、當年の慨論者にして若し自から省みば蓋し皆な昔日の幼かりしことを自笑するあらん、チトコムブ、少年に送るの書に云く、

若し少年にして、余は婚することを願はず終に婚することの望みを有せずと云はゞ、余は其少年に對して左の二事中の一つあらんことを推問す、即はち君は僞はりを言ふなり君が心中は反つて大ひに婚姻の事に付て掛念するならんと言ふべし、若くは亦然らずば君が清純なる心情は或る卑劣なる女性と交はりしことによりて汚がされてあるならん、と云ふべし。

此等の言大ひに人情を穿てるの妙あり、而して若し男子に向つて如此くに言ひ得べしとせば吾人は亦た猶豫なく女子に向つても如此くに言ひ得べしと斷言すべし。左れば吾人が嘗て再嫁、寡婦、及び老孃を論じて三篇を作るや、中に云へることありき、

蓋し愛情の尤も濃やかなる女子は其の思ひを疑すことを亦た

甚はだ強大なり、左れば一旦思ひ初めて或る男子と偕老の契約を爲したらんのちは、滿腔の愛情悉とく郞が上に集まり、視る所ろのもの聽く所ろのもの、風景、音樂、鳥の聲、虫の鳴く音、何れも郞を思はするの媒とならざるはなし、斯て祈りを捧げて郞が安全立身を願ひ、指を屈して佳婚の當日を待つに當り、不幸にして此の契約何かの事情に依りて悲しくも破れたらんには、譬へば白骨坐禪の僧が念凝したる頭上の一執念突如として玆に飛出したるが如し、之より心氣濛々有るが如く無きが如く空の如く現の如く人世の苦樂殆んど一身の外に存するかの如くに思はるゝものあり。女性が執着ある念情にして一度び此の絕望の經驗を過れば、之よりして復た緣事を思ふの勇なく、况んや之を口にするの念だになく、靑面生なく、常に怏々飄々として空しく殘世を送る。其跡に就て之を見れば固より老孃たり、然れども其の老孃と成り果てたるの由緣は則はち最初非尋常の愛情戀思の凝結して突然飛散したるが故になるを知るべし、ハンナモアの傳を一覽したるものは恐らくは明白に此の情理を知了するならん。或は亦た未だ曾て約束したるにあらずと雖も只だ心中密かに許したるの人にして不幸にして他に緣を結ぶことあらんか、或は吾が愛泉極めて深しと雖ども之を寄するの人なく滔々たる世上の浮薄男子一もわが濃密なる切なる思ひを充たすに足らざるか、如此き場合には何れとも其の望みを滿足することを得ざるが故に或は絕望し或は不滿足に感じ或は只だ世をあきらめて以て寧ろ獨居することを好むあらん、皆な何れも止を得ざるに出づるもの也。」之を以て如此き老孃は皆な尋常の女性よりも愛情更に濃やかにして琴瑟の樂しみを自覺すること更に切なるものなり、但だ夫れ其の理想高く需むる所ろ深きが故に容易に緣事を諾さず、而して一旦其の意中の人を獲るの望を失ふときは復た他を思はざるの固き決心あるを得る也。世人西洋婦人中のミスと名乘るものを見て其人甚はだ愛情に冷淡ありと思ふあらば之れ大ひなる誤まりなり、其人愛情に淡なるにあらず實は非常に濃密なるのみ。

左れば婚姻は人情の正當に趨むく所ろなり、人ありて之を強ひざるとも世上必らず婚姻の斷ゆることなけん、若し又人ありて之を強ゆると雖ども世上必らずや之が爲に立派なる婚姻を生ずることなけん、婚姻は最も深き最も切なる最も幸福多き情花の開發したる結果なり、故に吾人は其の極めて正當に極め

て溫厚に極めて緩和に結び成らんことを希望す、之が爲に人爲の接木を爲すものは必らず其の木を枯らすべし、况んや類を同ふせざる元來相接すまじきものを相接ぐに於てをや。宗教師問て曰く、汝ぢは人の勸めによらず、父兄の强迫に由らず、外物の誘迷に由らず、眞とに靈を以て靈を愛し、終身確束して玆に伉儷の盟ひを爲す乎と、頭を擧て天を望み、謹んで答ふ、然りと。如此く答へ得るものぞ初めて相ひ婚すべきあれ。

若し夫れ婚姻にして當を得たる乎、人世之よりも幸福なる者なし、婚姻にして當を得ざるか天下のあらゆる幸福は能く之が爲めの不幸を救ひ得ざるなり。ベーコン曰く、最良の事業、最大の功德は、婚せず子なきの人の手に成りたり、是れ彼が其の愛情、方便を擧て悉とく之を公共の事に婚嫁したるに由るありと、然れども此のベーコンは又た曰へることあり、妻子は人情を敎ゆるものなり、單獨の人は其の金錢を擧てよし屢ば慈善の事業に用ゆると云へども、然れども又一方に於ては多く殘酷なるとあり、多く頑固なるとあり、多く嚴冷なるとありと。抑そも婚姻は果して此の兩つの果實の何れを結ぶべきものなるか、之れ婚姻するの男女にあり、之れ婚姻するの當初にあり、之れ未だ婚姻せざる以前の心得にあり。

夫婦は天の命定する所ろあり、合性の理未まだ明らかならず、電交の論未だ定かならず、伉儷はたゞ神の合せ玉ふ所ろのものに由るあるのみ、故に須らく心を淸くし、思を高くし、謹んで道に問ふて而して靈の交結する所ろ如何んと推窮すべし。滿天下の民其數十數億なり、然れども吾が同伴者の只だ一人は此中の何處に在るやを知らず、彼は日本にありや或は果して外國にありや吾れは未だ之を知らざる也、彼は尙ほ生くるや或は果して死せりや吾れは未だ之を知らざる也、苟くも世に於て只だ一と度び合すべく而して身を終る迄で只だ一度も離る可らざる、只だ一人の同伴者を此の萬國の間だ十數億民の中より拔選せんと欲するときは、婚姻の事決して忽諸にすべからざるなり。

吾人は尤も婚姻を重んず、婚姻は人世最大の幸不幸を分つ樞機あり、故に人々苟くもする勿れ、若し當を得ば朝たの翼を得て天に飛翔するが如し、若し當を得ずんば磨臼を首にして水に沒するが如し、幸にして其人に會せば是れ天の使と接吻するなり、不幸にして其人を得ずんば是れ惡魔の鐵拳を受るなり、之よりして靈躍り顏玉の如くに笑ふべきか、若くは神枯れ欝々として死路を歩むべきか、之よりして櫻花滿開した

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

る林徑に入るべきか、若くは荊蓁亂倒の谷に降るべきか。未だ婚せざるの人は正に兩道之より岐るゝの路頭に立てり、若幸運ありと信ぜば則はち婚せよ、之れ汝ちの靈に宜し、故に亦汝ちの社會に宜し、然れども若し幸運ありとの望だになくば、汝ぢ斷じて婚する勿れ、如此くにして婚するは世上に更に一毒元を加ふるものなれば也。嗚呼人は食ふ爲に生くるにあらず、生きて而して道に働らくが爲に食ふあり、人は樂しむ爲に生くるにあらず、生きて而して善に進むが爲めに樂しむなり、人は婚姻する爲に生くるにあらず、生きて而して靈を發達し、事業を相助け、幸福を遺傳し、公私を利し、以て福德圓滿の太平世界を造り出さんが爲に婚姻する也、然りと雖ども、「朝たに道を聞て夕べに死とも可なり」、「正しきとの爲に迫害せらるゝは喜こぶべきと也」、「今の時は非常の時なり汝等婚せざるを可とす」、噫もし善に効あらずんば食はずして可也、道に助けなくんば樂まずして可也、況んや善功を沒し力勉を減し不潔を齎らし毒惡を醸し、國家の吉事太平を破壞するの婚姻に於てをや、婚姻何ぞ必らずしも人々の擧て負擔すべき責任ならんや、況んや彼の更に少數なる更に有德なる更に汚がさるゝとの損多かるべき女性に於てをや、女性の惣ては決して皆な婚姻すべきものにあらざる也。

論說

○英米女子高等教育大勢(其三)

け、うさき

次に合衆國におゐて高等教育を卒業したる女子の事業を言はんに千八百八十二年合衆國東部の女子大學卒業生はアルムニ會(卒業生會)をボストンに組織せり、會員の數殆んど六百名の多きに達せり、千八百八十三年シカゴにても亦アルムニ會を設立し會員八十名を有す、今アルムニ會の目的を聞くに主とする所は女子高等教育に關する問題を考察し學術的方法によりてこの理論を稽査し之を實行するにありと、合衆國東部のアルムニ會にては高等教育が女子の身躰に及ぼす生理上の影響如何の問題を討攻せり、之れが調査をなすに委員は十二大學(千八百八十二年迄に千二百九十八人の女子卒業生を出だしたる大學にて其名嘗て女學雜誌にも記載せりと覺ゆ)の卒業女生徒に書を送り各々が入校前、在學中、卒業后における身躰上の狀態を委しく吟味せられんとを告げて七百五名の回答を得たり、同會にては直ちに之れを統計表に製して世に公にせり、この統計によれば七百餘名の卒業生中四分の三は身

躰健康にして壯やか、四分の一は結婚せり（結婚の年齡は平均廿八歳）結婚后に擧げたる小兒は何れも壯健なりと見ゆ、其外東部アルムニ會になしたる事業を擧ぐれば家內衛生學を研究したるを始めとし歷史編纂の業に着手したると、洽く園藝術、製絹法、割烹の方法等家事に關するとを編輯して世人の閱覽に供したるが如きは重なる事業と云ふべし、この類の研究の社會に利益を與へたると莫大なり、ことに晩學の女子若しくは家事に多忙にして親しく學びの道につく能はざる女子を益したると鮮少ならず、又種々の材料を集めて家政學に關する研究をなしたるは西部アルムニ會の事業なり、西部諸大學にては家事經濟學の一科を設け女學卒業生自から學生となりてこの討究に從事したり。

過去廿年間米國の文學社會に女子の手になれる著書の増加したると、女子が頗る近世の科學に達したる跡は明著の事實にして疑ふべくもあらず、今少しく例を擧げて言はんにミチガン大學のルシー、サルモン孃は大統領天賦の權力と題する歷史の著者なり、ノース、ウエスタン大學のジヤン、バンクロフト孃は佛國々會につきて深く研究をなし一書を出だせり、米國古物博物館の刊行書中にて有名なるはフレッチヤ孃及びスタンレー孃の著述なり、バッサー大學の卒業生エレン、リチヤード夫人はボストン學術協會にて化學を教授したるを以て著名なり、ボストン大學のエバ、チヤンニング孃は米國東洋協會において切要なる問題を述べて喝采を博したり、その外宗教上、文學上、政治上の著述をなしたる女子、科學上の實驗に富める女子は枚擧するに遑あらず。

吾人は既でに英米に行はるゝ女子高等教育の實況一斑を述べ終はれり、吾人はこれを讀むで一々同意を表する能はざるも、英米の女子が己れらの權力を有ち、智德を兼備し（固より一概には云ゑねど）外に出でゝは學校教師となり、傳道者となり、禁酒會、矯風會のために力を盡くし、筆を執りて新聞雜誌の記者となり、學術進步の方法を講ずるの學者となり思ひ〳〵に得意の技術を演じ、內にありては賢母良妻となりて文明の健兒を薰陶し、剛毅の良人を奬勵するは重もに渠等が享けたる高等教育より胚胎し來りたるとを信ぜんと欲するもの也。

"The woman's cause is man's; they rise or sink
Togather, dwarfd or godlike, bond or free.
If she be small, slight-natured, miserable,
How shall men grow?"

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

批評

○竹栢園女史の「胸の思」　不知庵主人

ブリユーストツキングは將に日本に顯はれんとす。湘煙女史是が前驅をなし忽ちに花圃秋月嚶等の諸女史輩出せり。いづれも匂やかなる筆を以て豐かなる想像を錬り文學界を震動せるは女性の爲に慶せざるべからず。然るに殘念なる哉、如何に讃辭を呈したくも是等諸女史を二葉亭美妙齋等と全列に置く能はざるは勿論、今日第二の男性小説家と比するも一段を下れりと曰はざるべからず。盖し女性の長ずる所は人情の微を穿つにあり。さる故其長ずるに任せて小説の主眼は唯情致ありと心得られしにや大抵は脚色の立案に疎なり。春迺舍主人が壓卷なりと褒められたる「藪の鶯」の第六回の如き其細微を描きしは申分なしと雖ども、全篇の脚色より評すれば有るも可なり無きも可なり。若し此一回を以て全豹を測度すれば「藪の鶯」は小説にあらず女學校日記なりといふも强ち酷評にもあらざるべし。竹栢園女史の新作は此頃におき上出來なれどもなほ此憾なき能はず。云ふまでもなく女性の中に超出したれども若し遠慮會釋なく云へば是といふ脚色もなく殊に女性の特質ともいふべき長處―即ち人情を穿つにも亦疎なるが如し。竊かに主人が聞く處に依れば、女史は花圃女史と競はんが爲めに「胸の思」を著せりと。その眞僞は兎に角竹栢園花圃兩女史の作は女性中の逸品なれば是を對照批評するも無用にはあらざるべし。「藪の鶯」の缺點は變化波瀾に乏しきと異名全人多き事なり。是等は最も顯著にして小説には勤めて避くべき瑕瑾なるに竹栢園女史は見事にも其病に感染したり。申すまでもなけれど全篇九回何れの處にか變化ある何れの處にか波瀾ある。伊香保湯治場梅園が僑居を敍すればとて何面白味あるべき(のぞき眼鏡の如く塲所の變るを好むにあらず)殊に人物の殆んど全じきは最とも惜むべき事なり。梅園秀雄小島五郎高木露子小島元子等男女の別なく何も全嗜好全性質を備るに似たり。小島五郎畫工なりと雖も畫工らしき特點も見ず、梅園歌讀なりと雖も歌讀らしき感情も顯はれず(古歌を無暗に口吟むは面白からず)賣聲を聞て魚屋と八百屋を知に同ければなり魚屋は自ら魚屋八百屋は何となく八百屋の擧動ある者にして歌讀も亦それに全じ)。是本篇の大缺點なり。又「藪の鶯」は下流を寫せりとて非難されしが。竹栢園女史は其非難を避んと勤められし故高尙優美なる事申分もなけれど、其失も又茲にあり。一言に曰へば「胸の思」は即ち美術小

說とも申すべけれ。主人公梅園文學士高木露子は申すに及ばず小島兄妹其他盡く美術家あり、よし美術家ならずとするも口に發するものは盡く「美」の解釋あり。第一回の如き柳に宿る月を賞する一段に到つては他小說に見るべからざる高尙にして又缺點あり。小說は勿論美術の一部なれども審美學にあらざればナドカ「美」の講義を望むべき。如何に歌人なりとも歌の引證繁に過ぐ、梅園の詞のみにては足らずト思しけん、景敍の中までも引證せられたるはサテモ〳〵。「美」の意義に泥みて小說の本義を誤られし歟。次に歌論を挿まれしは何故なるや、才子演說なる政治小說の趣向に基かれしなるか、わけて怪しきは梅園文學士の學識、仔細知らねどマコーレーの議論丸取とは笑ふべき哉。小島も小島なり、マコーレーの論をマコーレーの說にて駁するとは。スルト梅園文學士が復もマコーレーを持出すとはおかし、是にて察すれば此小說の骨子は外にてもなしマコーレーのミルトン論ならん（因に云ふ小島の詞ばにマシニカルオペレーションなる熟語あれどマシニカルと云ふ語ウエブスター氏大字典にも見當らず思ふに Machinery と Mechanical とを折衷せし新語なるか）。ジヨンフオスター氏曾て曰く小說作者は大學者大智識を材料とすべからず若し自己の力及はざる時は其說其行爲往々讀者の笑を買ふべしと。竹柏園女史如何思ひ給ふぞ。

以上の瑕瑾あるを見れば女流の小說家は筆を下すに草率なるが如し。趣向に乏しきのみか往々全一轍に落るの憂なしとせず。殊に望ましきは精采なる眼光あほ浮世の微に及ばん事を。主人は縱令疎雜ありとも禮を知る者あり。何ぞ好んで無作法にも惡まれ口を叩かん。竹柏園女史惡くなひがめ給ひぞ。スチールが曾て引證したる一句は即ち主人が微志を代表するものなり、

Hacc scripci non otii abundantia sed amoris erga te. 　*Tull. Epis.*

叢話

○森有禮君の爲に泣けよ

今の論客ほど譯の分らぬものはあらし、殆んど感情に制されて天下の公道を忘るゝかと迄に思はる、さて〳〵歎かわしきとなる哉。吾人は怒る時には強く怒るのが好なり、又笑ふ時には高く笑ふのが好なり、然し怒るも笑ふも先づ道理の關門を通たる后なることを好む、笑ふべきに泣き、泣くべきに怒り、怒るべきに笑ふに至ては之を感情に強き人とは或は言ひ得ら

る、固より當然なる人物にあらず、左れば平常感情に强よき女性の方々は特によく考へて泣き考へて怒り考へて笑はねば成らぬ。文部大臣の刺客を憫れんで只だ涙を落す如きは實に詰らぬとなり。

森君の敎育法に至ては固より不賛成の所ろもありき、然し其敎育に熱心なりしとは實に吾黨の謝すべきとなり、其の女子敎育案に就ても固より不同意の所ろもありしが、然し其の女子敎育に熱心ありしとは實に吾人の尤も謝すべきとあり。然れども此等感謝の念の有無に關らず、其の殘酷なる落命を爲されたるとに付て慷歎するもの意外に少なうして刺客西野に就て嘖々するものゝ存外に多きは驚ろくべきとにあらずや、天下の公道の爲に、天下の道德の爲に、實に尤も驚ろくべきとにあらずや。

帝國憲法に云く、日本臣民は法律に依るに非ずして逮捕監禁審問處罰を受るとなし、又云く日本臣民は法律に定めたる裁判官の裁判を受るの權を奪はるゝとなし、と今の論客は一齊に雙手を擧げて陛下が此等の自由を賜はりたるの恩を謝したり。然るに此に一言の答辨をも聽かざりし否な一席の問答をも爲さゞりし否な一回の面晤をも爲さゞりし所ろの書生にして、我帝國の大判事すらも所有せざる刑戮權を握り、我帝國の一大臣に一個平民の所有する自由權をも守らしめずして、殘酷にも野蠻にも不道理にも之を刺殺したり、萬々一に於て如何なる罪惡の故大臣にありしとすれ萬々一に於て如何なる理由の彼一書生にありしとすれ此は悉く問べきにあらず、吾人は森有禮君と云へる日本の一士民が先帝國憲法に明記したる自由を奪われたるを憫れみ、西野文太郎と云へる日本の一士民が先帝國憲法上の大罪人となりたるを憫れみ、今后に於て如此き極不幸のあらざるとを切に禱らざる可らず。

二點を結び付くる最直線は只だ一つあり、正當の目的は只だ正當の手段に由て仕遂げらる、論者或は云ふ最も賢こき人にして最も賢こく刺殺するときは或ひ功ありと、之尙ほ世を毒するの論なり、吾人は何如なる時代何如なる國に於ても暗殺刺殺なる者の必ず多毒なるを信ず（一時には宜しかりしと見るともあらん、左れど大進步の上に於て大觀せば何日も害あるべし、よし戰爭に於てよも、し蠻野の時に於ても）若し然らずと云ふものあらば其の好例を擧ぐべし古來一毫も之に與長の効益ありしを見ず、况んや今の如く言論の自由を尊とみ、死刑の可廢を主張する程の時勢に於てをや、况んや憲法出で

大赦行われ自由の光輝燦然として既に火の如くなれるの日本今日に於てをや。

西野は尋常の人物にあらざりしかも知れず、然れども吾人は其の才徳の總てを（若しありしとすれば）彼が刺殺を爲せしと云へる一大惡の下に置かざる可らず、故に世に若し西野の眞友なるものありて彼が國家を思ふの念を襲がんとせば今や天下の人をして悉とく西野を惡ましむるより善きはなし、天下の人悉とく西野の行を惡み則はち以て暗殺刺殺なるもの丶尤も惡むべき行たるを知り帝國日本の後世に復たび此如き野蠻なる所行なきに至らしめば、西野が世を終る時の此の最大惡は反つて多少世に功を爲す者と云ひつべく、則はち以て彼が國家を思ひたりし本情を安んぜしめ、則はち以て彼が大ひなる罪を亡ぼすの一功徳とならしむるとを得べし。

嗚呼日本人よ、汝ぢは兎角殺されたるものよりも殺したるものを憫れむの愚あるぞ、よし殺されたるものに罪ありとも。又汝ぢは兎角刺殺されたるものよりも刺殺したるものを憫れむの愚あるぞ、よし刺殺されたるものが正大なるとも。嗚呼噫如此き國にはリンコルン、ガーフヒールドは生れ出でず、嗚呼噫如此き國民はガーフヒールド、リンコルンを優待するの道を知らず。日本人よ汝ぢ井伊直弼、姉小路少將、佐久間象山、阪本龍馬、横井平四郎、大村益二郎、大久保內務卿等が刺殺せられたるを思へ、何ぞ其の慘にして而して毒を流せるとの多かりしや。文明の歲月は三十年を過せり、然るに今に於て井伊直弼を辨ずるものあれば汝ぢ尙ほ刺殺者を讓らんとす、嗚呼日本人汝ぢ何故に如此く愚ろかなるぞ。

刺殺は自由の敵なり、之に由て身命の安全權は奪れる、之に由て言論の自由權は破らる、之に由て靈性を重んずるの念を失ふ、之に由て公明を確守するの義を損す、刺殺に由らては害を除き難きか、何んぞ正義の薄弱なる、何んぞ民力の薄弱なる、何ぞ輿論の薄弱なる、何んぞ腦力の弱く忍耐の乏しく踏正强進の勇なきぞや。

アントネーは泣たり「あはれシーザーが無言なる傷、汝ぢ口を開ひて公衆に寃を辨ぜよ」と。今や西野が數ケ所の傷はシスロよりも尙ほ口を開らひて能辨を揮へり、而して森有禮君の痛ましき胸腹は怨みを滿腔に含んで默せり。森氏刺されて卒倒す、夫人趨り出で丶之れを抱き直ちに問へり「何事をか言のこし玉ふとのなきや」と。嗚呼夫人は日本の人民に代つて之れを問われたり、特に日本の女性に代りて最と沈着にし

て之を問われたり、謹告す我が同胞の姉妹君等もし涙あらば今ま此が爲に灑げよ、君等が子弟の教育の爲に、否な尤も多く君等自身の教育の爲に畢生の力を盡されたる、而して功業未成す一刄の鬼となりたる、此の大不幸の人森有禮君の爲に泣けよ。

○貧女衣服を縫ふ

もみぢ

睫たは重く、指は疲れたり、貧女は女らしからぬ襤褸を纏ひて深夜暗燈の下に衣服を縫ふなり、食足らずして餓え衣も薄くして寒むし、左れど重き睫たを開き疲れたる指を勞して衣服を縫ふなり、燈は暗らし枯聲を擧げて歌ふて曰く、

働らけよ〳〵、朝たには鳥の起て鳴くよりも早く、夕べには星の出でゝ輝やくよりも遲く、たとひ心一つ、業は正しくとも、たゞ蠻民の奴隷の如くにして働らけよ〳〵。

頭らは亂れて眩らめけり、眼こは眇みて重くなれり、襟よ、袖よ、裾よ、又た裾よ、袖よ、襟よ、覺らず恍惚として眠り、眠りて尙ほ夢中に衣服を縫ふ。

噫男子よ、汝ぢに親愛する姉妹あらん、噫汝ぢに母あらん妻あらん、而して汝ぢが爲に世間に苦しめる女子は多ぞ、汝ぢが爲に苦しむものは麻布よあらで、生ける人間の生命なり、貧し、衰ろへ、餓へたり、一系の糸をもて二枚を縫はんよしもがな。

誰か死者を懼るゝと云ふ枯れたる骨幽なれども其の形ち恰かも妾に似たり、妾は久しく食はず疲せて死者の如し、噫神よ、麵包は左樣に價ひ高く、肉と血は左樣に價ひ低き哉。

働らけよ〳〵、妾が業は止めがたし、止めざるの報ひ幾干ぞ、藁の蓐、麵包の屑、襤褸、及び彼の破れたる屋根、此の敷かざるの床、一の台、碎けたる倚子、壁は掛くるものなく徒らに白ろし、暗燈妾が影を映じて、あゝ謝す一張の畵幅現ず。

冬天寒むし、微かなる温光も妾が家に入らず、氣麗らかに温かきとき、擔前の燕雀暖を背に載せて妾を顧りみ、既てに春近し何とて出でざるぞとは囀づるなり。

噫暫らく野外に出で、頭らに天を戴だき足に靑草を踏み、綠々たる野草の氣の吸ひたき哉、妾は多くを望まず只だ暫らくの慣れし逍遙のみ、左れど暫らくも尙ほ時を失ひ、時は妾が三日の食を失わす。

更らに短かくとも暫らくの暇まを與へよ、妾は戀の爲に妾

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

は望の爲に暇あれとは願はず、たゞ但妾をして歎く爲に暇あらしめよ、若し泣くだに泣かしめば妾は僅かに慰さむべし、左れど一刻の泣きも一刻を失ひ、一刻は倘ほ妾が一日の食を失はす。

食足らずして饑え、衣も薄くして寒むし、左れど重き瞼を開き疲れたる指を勞し、貧女は女らしからぬ襤褸を纏ひて衣服を縫ふなり。此時に於て何んぞ銀燭三千綺羅星の如き鹿鳴館の舞踏遊を望みとせんや。

○子を敎ゆる忍耐あれ

山下石翁

司馬温公のいはく、子をやしあふて敎へざるは父の過ちあり、敎へて導くとの嚴しからざるは師の怠たりなり、父敎へ師嚴しうして學問の成るとなきは子の罪なりと。此の語甚はだ宜しけれども子を敎ゆるを只だ父の事とのみ思ふは倘宜しからず、之には特に母の功あるあり、而して母の子を敎ゆる尤も忍耐ならねば其効あきなり。ウエスレー人となりて後ち母の德を敘て曰く、余が幼時、母は一つの事に付て凡そ二十度も忍びて余に敎へ玉ひたり、其時父は母に向ひて言はるゝやう能く左程に度々敎へ得らるゝよな、厭かざるとの仕合よと賞めらるゝに、母は曰く、若し十九度まで敎へつゝ倘ほ一と度び敎へざりしに由りて悉とく無効とならば何如に殘り惜しうか候はん、と余は今まに至る迄此の語を記臆したり。エスレー氏が能く百難に耐へて道を傳へたる、其の素因なきにあらず。

○愚人の評

是空子

ベニスに名高き畫工あり、奔馬の圖を作る、某と云ふもの之を觀て嘲けりて曰く、此は是れ馬の足を曲げて寢んとする所ろ歟、左らば少しく位置が惡し、生理上の規則によるに此處ろ四十五度に曲らざる可らずと、畫工辨じて曰く否な足下、そは君が觀玉ふ方角の違ふなり、圖の持ち方が違ふなり、之は馬の眠るにあらず走る所ろなりと。嗚呼批評の流行るに付ては無下に愚かしき人も亦た彼此と評するあり。

○小兒の姆の事　（其二）

ホイトニー、クラ、梶夫人
かすみ譯

されば小兒の周圍にをるものが、怜悧く、堅固で、信實で、格別心と言葉に淸潔である樣にする事は、母たる人の最上の義務で御座りませう。余義あい事情が御座り升あらば、姆の給料を倹約するよりは、寧ろおさんどんや他の僕婢の不手際な方が宜しう御座り升、姆丈は最上等のをお擇なさい、斯樣な事におつかひなされた給料は、決して衰りは致ません、そし

て其者に子供の仕着方を心得させて、必ず其法に從ふ様になさいまし、正直な信實な女でさへあれば、すぐにあなたがたのなさり方を見習ひ、蔭ひなたをする様な事はなく、あなたの前でつかわぬ様な言葉づかひは、お坊さまお孃さまのまへでも決して遣はず、またあなた方のお好にならぬ處などへおつれ申す事は御座りますまい。小兒の事に付てはきちやうめんな事が宜う御座り升、他の事には或は怠りがあつても、假令親愛なる朋友の心を損ねる悲があつても、あんまりぎやう〴〵敷とか、神經質だとか言れる様な事が有ても、小供に對する義務は、決してお欠なさらぬが宜しう御座り升。未來の幸不幸が悉く是によると考ますれば、其性質をたゞ敷つくり出す事の大切なのが分て參り升。靜で忍耐深く信實な婦に養育さるゝ小兒は、落着た柔和な大膽な性質になり升、そして此様な性質は其小供將來の世渡にどの位な價直があるか知れません。小供のぢれて泣くはさほどの害にならぬ様に申人が御座り升が、これは大變な間ちがひで御座り升、小供をもし泣せつけ其様な一の僻を着ますれば、柔弱なうろたへる性質をつくり出しまして、終には人の皆逢ねばならぬといふ困難に壓倒され、失望失敗をとる憐む可き人になり升。小供はあかせぬ様になさいまし、そうすれば必ず大膽な男々敷人になりませう、有名なジヨン、ウエスレイの母は十九人の子を舉ましたけれども、子供の一歲以上になりましてから、近處の人に泣のを聞せた事がないと申升。彼の母はよく其小兒に己を制す事と、勇氣とを敎ましたから、皆立派な人に成ました。萬一子供に財産を遺す事の出來ずとも、なる可く健全な身躰と、健全な靈と智覺とを遺物になさりませ。されば後來あなた方の慈愛深き心も、倦事なき手も、最早小供の爲に効益のないと云ふ時に至りても、あなたがたの小供衆やお孫さまが、代に感謝なさるで御座りませう。（完）

佳傳

○破鏈談　　みどり

第四回　知己を得て友人を失なふ。

茲に府會議員にロメチと云へるものあり、ジーンが捕へられ其家族が大ひに悲歎する由を聞て甚はだ悲しきことに思ひ、或る日之を慰さめんとて其の家に至りぬ。マリーは彼の事のありし當座こそ氣張りて毫も歎ける様なく反りてジーンが健氣なる處行を名譽としたる程なりしが、一日二日と立つに連れ

て悲しき心漸くに湧き出て今は穏に出でゝ人の怒れを引くほどとなりぬ。ロメヲ之を見て先づ甚たく心を打たれ、種々に慰さめつゝ且つ勸むるやうは、來る土曜日に我が家に府知事を招き參らすべし、其折り卿も來合せて直接に府知事に近づき、心を盡して哀願し玉へ、左らば假令ひ全く免されずとも幾分かはジーンが刑を輕くするに足らんと、最と信切に心付けしたるぞ感ずべきとなれ。

府會議員は折節に夜會を開きて府知事夫婦を招待するなり、其時夜光白電を燃すが如く、紅花緑葉時ならぬ春の花壇をしつらへ、滿堂に全府中の美を集めて奢りの神に捧ぐるの趣あり、左れば大凡そ浮世の交はりに浮かるゝものにしては、此の會に招かるゝは恰かも天國に召ばれたるの名譽あり、之に招かれざるは殆んど暗き地極に遠ざけられし如くに思ふとなり。ヒウゲノツトの教徒は夢にだも斯る集りに會したることなし、夫のみかは夢にだも茲に會せんとは思はざりしならん、然るにマリーは今ま此に招かれたり、而も浮たるとにあらで畢生の友ジーンの救ひの事の爲めに招かれたり、何如にしてか浮たる心あらんや。左れどマリーの母と云へるは中々に俗々しき躰にてありしかば、今娘が斯る天國に招待せられたるを此上なきとに思ひ、衣裳よ、帽よと、さま〴〵に飾り立てさせ恰かも是れ愛子を出世の途に上らする心地にて送り遣りぬ。然し乍らマリーはいよ〳〵沈めり、舞踏室の一隅にちさくなりて座しぬ、ロメヲが忙がわしきまゝに彼の事を忘却して放置するにぞ、彼女は憫れにも放置されて其儘に茫然たり。

當夜の正客と見らるゝ夫婦到着せり、主人は固より狂する斗りに歡迎したり、他の踏り跳ねたる面々も吾れ勝ちにと近づきて挨拶せり、正客夫婦は一々に笑ひを分配し、手を伸縮し、握手をほどき握り、只だ意味もなきお世辭を數十遍くりかへせり、マリーはいよ〳〵不快にありて此向の一隅より睨らみつめたり。

マリーの座せる傍はらに一脚の空しき倚子ありけり、正客の夫人は最早挨拶に勞れ果てしか偶と之を見て其儘に近づき、之に座しぬ。さて愛敬ある奥方として傍はらの愛想なき乙女を輕しみもせず、

あなたは何處かでお目にかゝつたとがありましたか。

イヽエ御座いません、あなたは何方さまですか。

と飾り氣もなく問かへしたるこそ、空世辭の后には反りて一層の味わひあるべし、夫人は乙女が淡泊なるに打笑みつゝ、妾

はこそ府知事が妻なりと語られたるに、マリーは愛らしき眼こを輝やかせ驚ろく迄に喜こびつゝ、扨ては奧樣にてありつるよ、今夜はかく〳〵の事にて參りし、只だあなた樣等の御助けを戴きたくとて參りしと、涙を落して語りたり。

夫人はマリーが友を慕ふの切なるに感じ、其の幼ならしき愛らしきに動かされ、同情の念茲に起りて禁じがたく、つと立ち上りて遙か彼方にありし良人府知事の許に近づき、ありし事を物語り、何如にかして助け遣はされたしと迫りぬ。府知事は冷淡に頭らを振り、夫人よ何如にして夫が出來申さうぞ、せずもよき迷信の爲に捕はれたるものあるを吾が手にて致しやうなし、ボルテーアの力らにてもあらば亦た爲ん方のあるべけれ、と半ば冷やかに半ば夫人に辨じつゝ答へける。其語ば未だ終らぬときマリーは早くも此に至りぬ、府知事を見て早や大方は望のかなひしやう信じつゝ、懼れ氣もなく其前に平伏したり。

之が即はち彼の乙女に候、之れこそ捕はれたるジーンの緣女にて君に願事ありとて參りしものに候と、夫人、ロメチ、は諸供に府知事に紹介したり。人の手前もあれば府知事は左樣に冷淡に言ひ離つことも出來ず、最と穩かに身を曲げてマリーを慰さめ、汝ぢが心配はさこそと察せらるれども、余は只だ政府の命を奉ずる役人なれば、余が獨力にて、定まりし法律を何如にとも致しやうなし、もし輿論大に動きて此の法律が改まらぬ以上は、余は只だ其の律法によりて之を裁判するのみなれば、敢て無情なしとな思ひぞ。マリーの望は斷絕したり。」

當時敎會の僧侶は大ひに腐敗し其感化力は殆んど無き迄に澌らぎたるに、ヒウゲノットと稱する彼の新敎徒の面々は火くるが如くに熱心にて其の宗旨なか〳〵に勢力あれば、僧侶は政府の手を借りて此の異宗徒を制し、世の中の力によりて靈の自由を壓せんとしたるぞ惡むに尙ほ餘りありと云ふべし。左れば政府は彼等が願ひに應じ、政敎茲に一つとなりて凡そ宗敎を信ずるものは此の舊敎を信ずべしと布告せられ、新敎の徒が公けに祈禱し集會するとは固く禁ぜられしなり。時にボルテーアと云へる剛邁英俊の學士あり切りに無神說を主張して宗敎を冷嘲したりしかば、民心いよ〳〵宗敎に冷やかにして宗敎界に靈の自由を得ざるものゝあるや無きに頓着せずゝ彼のヒウゲノットが眞神を拜し靈に泣き熱血をそゝぎて眞理を聞かんとするの自由を妨たげ居らるゝの苦惱を察するに暇まなし、扨ては僧侶はいよ〳〵壓制し、世人はいよ〳〵冷

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

眼視し、憫れむべし新教徒は國法によりて公然集會祈禱するの自由を禁止されたり。

府知事は云ふ、もしポルテーアの、即ち無神説を主張し宗教を冷嘲する所ろの彼のポルテーアの勢力あらば或は輿論を動かして此の法律を變ゆるを得べし、法律ある以上は之によりて新教徒の捕へられたるを罰すると實に致し方なしと云り。

嗚呼マリーは論じたり、何故に新教徒は信仰の自由なきか、彼の不信徒は其の不信仰を自由に云ひ顯はし得るに、妾等は何故に吾が信仰を自由に言顯はし得ぬかと。左れど其の論辨は無効なりき、府知事は致し方なしと云へり、彼のポルテーアに頼むの外なしと云へり。嗚呼望は堪へぬ、火を以て火を救へとは如何に更に絶望すべきとなるぞ。

當夜の會合は幸わひなりしや否や、天獨り知ろし召さん、只知る、其の翌日、ヂーン等はモントペリーアに遷されたり、而して彼處にて宣告されぬ、終身船推の刑に處すと。

ナポレラン曰く余が宗教は下の如し余れ此の大宇宙を觀るに此如く宏漠如此く壯大如此く複雑故に之れ決して偶然の決果にあらず必らずや知る可らざる一個の全能者の造化に由る也而して此の全能者の人間に優るとは彼の大宇宙が人の造りたる器關に優るが如し。

小説

○理想の紳士

月の舍しのぶ

第五回　信じていよ〳〵信任すべき人。

余は其後ち三十日ほど病に伏せりて窓の外をだに眺めざりしが、今日は大きに心好くて煩わしき思ひの失するに付け、扨て思ひ出すは襄が事なり、其後ち何如なしつらん、何如に働らきて居らんと掛念しては襄が顔の目の前に見ゆる樣なり、戀望して窓より秋の天を望み見るとき端なく襄が彼の皮を積める馬車を追ふて通るを認ため、驚喜して召び止とめ暫らく入口にて談したるが、勢が八釜しき小言を聞くに堪へず尙ほ仕事の途中にて遊ぶべきにあらねば、襄は卒忽として又た馬を追ひ行きたり。曾ひし後ちは尙更らに慕わし、憶ふに襄は是れ何如なる良友ぞや、余は彼が深切なる言行によりて初めて優しきと云へるものをぞ知りたる、抑も優しきとは、深切、懇篤、慈悲、なんど云へる氣質と少しく似て大に異れり、眞の優しさなるものは、強き深き無口なる人に於て初めて現はる丶氣象なれば、大凡そ十分の優しさなるものは彼の女性にあらずして反つて剛強なる男子にあるものなり、余は今まで之を襄に見とめて樂しきと限りなし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

午になれば、父は製造場より歸られ、余が床を上げて起きたるを見て心中大ひに喜び玉ひしならん、只だ一言二言仰せられし中に無限の愛情こもれりしとは思はれしなり、特に之が爲めなるべし常になく世間談しを語られて、食事の間だに二三の新聞を話し玉ひぬ、其時聞たるは是相先生（醫師）の診察さるゝ中にお瑠珠と云へる乙女あり、何か騷ぎたる爲に手に大傷を受け隨分に由々しき治療を施されたりとの事なり、扨ては去月裏と初めて會したるとき、裏に麵包を與へんとして婢に止められ、戸を閉づる途端に嚴しく絶叫したるが夫にてありしよ、裏に語らば定めし驚くならんなど獨り心中に想ひ起しぬ。

食事終りし時、余は父に晝後は製造場へ連れて行かれたしと申したり、父は驚ろき乍ら喜ばし氣に見返り玉ふとき、勢は亦た常もの如く大聲にて反對したり、左れど父は平生余が病身の上に生來商賣を嫌ふとを悲しまれ、何とかして家の營業を襲ぎ得るやうにあらしめんと思ひ玉ふなれば、此時余が少しにても製造場を見たしと申せしを特の外に喜ばれ「用意をさせよ」との一言を仰せありぬ、一言は金鐵よりも固たし、勢はたゞ怫々として之に從ふのみ。

例の車に乘り、父の後りへに從がひ、能登市場の製造所に趣きぬ、早や近しと云ふ邊りより臭氣紛々として鼻を衝く、或は死せし肉骸の前にある如く或は激戰後の血なまぐさきを嗅ぐが如し、左れど裏を見んとの樂しみに引れて尙ほ進み行けば、折しも裏は息りなく働らきつゝ居れり、馬に臼を引かせ、柔皮用の木皮を剝ぎ、時々乾芻を馬に食はするのみ、傍目もせず、話しもせず、たゞ不亂に働らき居れり。

裏は彼方を向きて余等を見ざれども、余は早くも彼を見て胸先づ轟ろきたり、只だ之を消すと云ふ思ひ入れにて、小聲にて父に問へるやう、

彼は何如ですか。

誰か、エーあれかエ、イヽ樣だ、別に落度も見へん、お前はあれに車を推して貰うか、ヨシ〳〵。

少年〳〵と父は呼び玉へり、彼は驚ろきて此方を見たるが、余の在るを見て莞爾としたり、木屑のぼろ〳〵としたるを拂ひ乍ら出で來り、父の命を聞て余の車を推し、彼方に參りぬ、此時余が喜こび如何なりしぞ讀む者推し玉へ。

製造場の庭に行き、今は枯たれども素と芝ありし平地の處ろに來りて、余は車より降り、裏と膝を交て打語らいたり、さま

しく〳〵に語れるうちに褻は無心に余が手を握り乍ら、卒然注意して瞳みを凝らし、

あなたの樣にお弱い方を見たことがありませんが、夫に亦た此の一と月の内に大相お瘦せなすつた、餘程餘程お惡かつたのですか。

彼が眞實なる熱心なる心配せる言葉は先づ余を泣かせたり、余は何故に斯く余が弱きかと云へる由來を物語り、又叮嚀に病中の事など話して彼に万事を明かすことを示したる中にも、褻は切りに掛念して甚はだ憂はし氣なれば、

然し、褻、夫を心配して下さるな、私しは之で滿足です、安穩な家もあり、善き父もあり、其上私しに欠けて居つた所ろの一つが……朋友……が亦た得られたから。

褻は微笑したり、左れど此は只だ余が微笑したるゆゑにて、彼は未だ余が言ひし言葉を瞭解せざりしとは見へたり。實に褻は感じの鈍ぶき質あり、そは凡そ自ら制す强き氣質の人物は大抵皆な鈍ぶきものなれば褻も亦た其故なりとは知らる、左れど感じの鈍ぶきものは一旦感ずるときは決して之を除きがたきものにて、余が氣質などとは全く反對なり、余は神經銳敏にて物ゝ感ずると極めて迅速なれども、亦た時の立つに隨つて强く感ぜしことをも忘るゝことあり、褻は恰かも之と表裏し、余が思ふ言の葉をも全く了解せずに聞くこと多し、然れども余は能く彼が氣質を知れるゆゑに之にて不快に感じたることなく、反つて彼が容易に物言わざるの一言は實に常ならぬ價ひありと思ひ居れり、其の重々しく吐き出す言語は悉とく眞實にて、之を言ふと共に兩眼は其の眞實なるを證し、且つ述べ出せる一言の下には更らに無量の感じを胸中に殘し置きぬることを證し、彼が心には愛、好、など云へるものを安置すべき固き要石あり其の動かざることによりて此「信任すべき人」と云へることを現はし、彼が氣質は之を知るに久しきを要すれども、いよ〳〵久しく知ればいよ〳〵深く信任するに足り一度び信任すれば最早永久に變りなく信任するに足ることを證する也。

寄書

○千松閣偶成　　湘煙女史

非爲佳朋開戶傭、山家自尙絕人蹤、帝城春色繁華足、欠此白雲與綠松。

○案山子社中　　同志社神學部　津田次郎

(上略)池袋君より和歌をば學び一人二十名ほど有之いへども漸く當校を去り昨年より新に學び始めたる者四十人程御座い第一社中は湯淺佐藤三輪津田大西新原金見等にして第二社中は志垣白木加藤樋田阿部井手拜に小崎等にして一昨年六月より第三社中たり(現今迄續き居り八人)昨年十月第四社中十一月第五社中たり中に將來我國の poetry は漢詩ならんか和歌ならんか一般人民には漢詩が解す能はざるを以て必ず和歌ならんと存じ候今現今の卅一文字の和歌の改進變化したる者と

存ぜられ候趣味と用語を雙じ苟も美妙の感を起す文學は俗語でも洋語でも漢語でも（一般に解するを得る）（例せば自由瓦斯ガラス滊船汽車）之を用ゐる時は今の三十一文字の言ひ得ざる思想を言ふを得ん小弟の考へには和歌には一つの長所有之即ち（tone）風調、調子にて將來一般に行はるゝ我國の（poetry）中には必ず此短歌の調子が有之由可き事と存ぜられ候去る十二月頃より池袋君と語り短歌の改革を爲さんと先づ用語を廣むる積りにて未だ日本人の用ゐし事なき（一般に解するを得る）新文字を作り山の邊の里といへば川の邊の里ともいひ野の中に杜があれば野杜といひ杜の中に里があれば杜里川があれば杜川里の傍に杜があれば里杜山の端といふを得れば軒の端ともいふ可く又軒端ともいへば山端とも島端ともいふを得可くこれは名詞のみなれども先づ進歩の第一着歩は名詞よりと存じ候間これより實行致す可く生の詠みたる例は

杜寒月

小夜時雨はれし野杜に風寒えて木の間もりくる冬の夜月

海上千鳥

しまの端に月はかくれてわたつみのくらき浪路になくちどりかな

雪

谷里の杉の下路白雪の消ぬ冬よも成にける哉

漢語洋語を入れし例は

寒月（新に用ゐし句）

なく犬の聲さへ渡る雪の夜にガラス戸てらす冬のよの月

天王山に登りて

大坂も神戸の空も明初てきしやのけふりの打なびく見ゆ

寒夜瓦斯燈

人絕へし都の大路霜見えてがすの光の寒き夜半哉

又池袋の君の詠に

山澤のそこに清水のわく見えてしつむ木葉のおどりける哉

打渡す垣ねしくの春風に野里はるかに梅か香ぞする

此野杜島の端谷里雪の夜にガラス戸きしやがすおどり野里は他の語を用ゐていふ可からず或は言ひ得るも多くの文字を用ゐざる可からず又俗語にても漢語にても洋語にても如何なる字にても用ゐんもよきやといふに然らず必ず俗劣と無感格の文字は用ゆ可からず感格ありて俗なる歌は狂歌也然れとも俗ならざるも感情の起らぬ歌は歌に非ざるなり思はず足引の山鳥の尾の長〳〵しく書し申し候餘は後便
頓首

二月十六日朝　津田次郎拜

巖本善治兄

新報（此の欄内自由に轉載を許す）

〇下田歌子女史の演說

同女史が去月華族女學校に於て演說せられたるものゝ筆記を得たり、少しく後れたれども是非讀者に示し參らせたきもののあるあり、其の大略は左の如し、

姬たちよ。今日は本校授業始の式日なり。世俗の習慣に、歲の首の祝詞には、相變らずといひて、變る事をば忌むなるが、年每の始業式は、此月十一日を以て行はるゝに、今歲は一日を違へて、十二日になむ有ける。この變りたるは忌むべきわざか。いなめでたき事なるべし。さるは、きのふは新宮に御わたましさて、天の下ゆすりて喜び、同じ心に祝ふ日なりければ、姬たちも朝まだきより、本校に來集ひ、前門に並み立ちて、行幸を拜み、御代を八千代と祝ひ奉りけむ。此故に一日を違へて例に變りたるは、中々にめでたしともかしこしとも、言の葉なくや侍らむ。然喜ぶにつけて、過にし事を思ひ出づれば、忌々しけれども又更に涙ぐまれぬ。事のついでなれば語り申さむ。いでや、西丸の宮、炎上の夜は、わらはも後宮に宿直せしが、火あり火ありと呼ぶ聲に立ち出づれば、はやむせかへるまで烟みちぬ。心あわたゞしくて、裝束もしあへず、御前に參りて、いろ〳〵のかし奉る程に、駕輿丁心得て、御輿さし寄すれど切めて暇なくて、御歩より出で給ひぬ。夜半の嵐、炎を吹き卷きて、火の粉は、雨あられと降り來ればいと苦し。よし大御身だに恙なかれと、心の內に天照大神をいのりつゝ、辛くして吹上の御苑に逃げのびつ。つとめて、赤坂の假宮に奉るべき由、議定まりぬ。宮は、もと紀州侯の私邸なりき、そのかみは大后の宮わたらせ給ふなるが、さるべき所ころ、きら〳〵しうもあれ。さらぬあたりは、殿も廊もなかば壞ちたる儘にて、住む人もなければ、庭も籬も秋の野らと荒れにたれど、先づ、南おもて掃ひあけさせて、假の御しつらひしたり。かゝれば、我の御座も程近くして、帝、聲高に物仰せらるゝには、わらはが曹司へさへ、とほりて聞えき。いと畏し。又ある時はしぐれして、古き軒端に雨漏れば、候ふ限りうちはしりて盜ものせよ、桶もて參れと、のゝしる事も度々なりき。されども、帝は高津の宮のためしなど、覺し出でゝ、何事もねんじおはしぬ。后の宮は八疊の一間を御座所と定めて、御假粧の間には、入側といふ端近き所をかこひたれ

ば、御ぐしあげの女官參る折へ、うへには異ほにもおはせで、明障子にひたさ添ひ給ひて御髪めされぬ。かく所せき御有様を窺ひ知る者、誰かは悲しういさほしう見奉らざらむ。心なき鏡も、面をくもらせ、櫛げの露も常よりは繁しとこそ見えたれ。候らふ女房たち、且暮にはしたなしとつぶやきあへれば、うへ、聞しめし餘りて、いでや、石の上にもみとせといふ諺のあなるを、いふかひなしや。みづから不德にして、國母と仰がれ、玉のうてなにかしつかるゝも、埴生の小屋を見るたびに、いと心ぐるし。いかで一度は、賤の家にも馴れなむとこそ思ひしかとて、御料紙に

　こゝにわが、占めし席はせばくとも、廣く尋ねん文の林を。

と遊ばしき。此大御歌のかたじけなさに、かごとがましきうれへはひそまりぬ。姫たち能く聞き給へや。十七年がほどの間、かの所せき假宮をも厭はせられず、文の林をとの大御心より、此廣き學校を建てさせられ、道々の文の師、めしよせ、日本、唐山いへば更なり、西洋の書どもあまたあつめ、博物場には珍らしき動物をり植物園には美くしき花さけり。又理化學に用ある器械は、財を惜まず、勞きを辭せず、遠く求め多く蔵めて、もろ〳〵の學を授け、人の妻となり、人の母となる道に教化給ふは、是いづくよりの賜物ぞや。斯く何事も、滿ち足らひたる學校にありながら、足らはぬ人と生ひ立ちて、世に人がましくも言はれ給はずば、おのがじゝの怠りへさるものにて、本校の面目にも關はり、云ひもて行かば后の宮の令旨にも背き、忝なき大御心を蔑にする理なるべし。此莚にある人々よ。彼の過ぎにし御有樣をかへりみて、驕り高ぶる事なく、よろづ質素を主とし、今の大御心を戴きて、學業を勉め品行を愼み、いかにもして一所の御恩に報い奉らむと、心がくべき業ならずや。けふ授業始の日にあたり、思ふ事ども取集めてかくなむ。

嗚呼皇后陛下の聖德至れる哉、万民贊美すべし、贊美すべし。

○日本の男女人口

第七統計年鑑に據るに、明治十九年十二月卅一日の調査に、日本の人口男子は一九、四五一、四九一にて女子は一九、〇五五、六八六あり、即ち男子の女子よりも多きと三十九万五千八百〇三人なり。然るに吾人が實際は必らず如此くあるまじと思ふ所以んは、今の戸籍調べの上よりして、逃亡者も久しく其名を記し置るゝとあり、一方に寄留の名を殘し乍ら再たび他に寄留の名を記入さるゝとあり、然るに此等は皆な男子に多きとにて女子には殆んど稀れなる出來事なれば、凡そ統計上の男子の人數は死したるを生かし生きたるを二三人に見るなどの不都合あつて、然る大數となる誤ちもあらんと信ず。

○東京府會の美なる議決

去月廿一日の府會に於て四十番議員沼間守一氏の發議、黴毒病院費二万三千四百四十五圓を修正したる常置委員の一万九千二百七十九圓十八錢五厘に基づき本年四月より六月迄でに其三分一を支辨し六月以后は單に醫員六名(但し區郡部會の負擔あり)月給平均二十圓を給し病院建修の事を各遊廓の支辨に任すの說は、五人に對する四十七人の多數にて可決したり。翌廿二日の區部會に於ては常置委員の修正に基づき娼妓には一切税を課せざるとなれり、其時高梨哲四郎氏の如きは衆議紛々たる間だに大喝一聲議長と呼び堂々たる議員諸君にして此の賤しむべき娼妓の內幕にまで立入りて議論するは實に當區部會の躰面を汚すものありと迄激論せられたり。嗚

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

呼今や一段の進歩を得たり、府會の空氣も亦大ひに清める哉謝すべし〳〵。

因に云く、右に云へるは唯だ區部會の決議にて即はち吉原洲崎の兩遊廓に關するとなり、他の四宿は郡部會の決議を要するとなれば其議決の何如んは后に至て別に報ずべし。此等の事に付本號に府會議員伴直之助氏の寄書を附録としたり、讀者乞ふ一讀あれ。

○女學雜誌社に寄す

青山南町の人木村雄之助氏は左の書を寄せられたり、

生は本日貴社にて書を購ひたるものなり生初めて貴社を訪ひ大に感動する所ろあり貴社は妓楼櫛比絃歌喧騒なる中にありと雖ども眞さに貴社面積の空氣の純粹清潔毫も汚物なきを認め得たり其論ずる所ろの神聖潔白なる蓋し故ある哉醜本先醒生は常に先醒の高論に服す先醒は人中の○にして貴社は泥中の荷花なるものか頓首、二十五日。

歸宅の途次青山のポストに於て

固より當らずと云へども（特に當らざるの一字は怖ろしく感じて除き措く）之を掲ぐるは抑そも故あり、吾社が妓樓全廢の論を主張するや或る遊廓の雜誌讀者は直ちに購讀を中止し且つ吾社員に向つて大ひに罵りたり、然るに今ま木村氏の爲めに一恩言を辱ふするは實に此等の爲め也。人世の褒貶固より定めなし、誰か大道を信ぜずして能く特立獨行するものぞ。

○宣教師女學校の國文學

宣教師諸君の管理せらるゝ基督教女學校には、英文學に達せらるゝ女秀才極めて多し、其の多きとに付ては蓋し世人が預想せらるゝの外ならん、一日に三四百頁の小説を通讀し、片時に英文章を呵成せらるゝ如きは珍らしからず、然るに悲しひ哉大抵和漢の學に拙なきが故に文意余りて之を國人に訴ふるとを得ず、空しく腹をふくらせて沈默名なきぞ遺憾なれ。然るに近來は大ひに此の弊を覺知せられたる如し、何れの校にも競ふて國文學を研究せらるゝの傾きあるが如し、特に櫻井女學校の高等生の如きは彼の二葉亭四迷氏に請ふて毎週文學の研究を為すに至れりと聞く、女學の文運之れより大ひに望みある哉。

○注意せよ、慷歎すべき一大事

フランク、カーペンターと云ふもの、パーリントン日々新聞一月二十二日の紙上に於て、我が帝室に對し、我大日本國の道徳に對し、尤も憤ふるべく怒るべく慷歎すべき奇怪の記事を掲載したり、吾人は慟哭す、當に次號に於て大ひに之を論ずべき也。

○嗚呼キンチアド男爵夫人は死せり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

嗚呼マリー、ジエーン、キンナアド(M. J. Kinnaird)男爵夫人は去十二月一日、英國倫敦に於て卒去したり。近代の英國に於る社會改良の事業を知ものは誰か夫人の名を聞ざる者あらん、夫人は彼のカンニン女史と共に倫敦チヤーロツト街に看護婦學校を設け遙かにクライミアの戰地に送るべき看護婦を養成したり、戰ひ終る後ち此學校を用ひて少女院なるものを起しぬ時これ千八百五十七年にして此の院遂に今の如くに隆んなる女子青年會の基ひとはなれり、又印度の爲に女子敎育傳道師派出等の事に卒先盡力し、千八百四十二年には聖約翰家政學校(トレーニング、スクール、フホル、ドメスチツク、サービス)を創立して今の如くに盛んとあるに至らしめ、聖書及家內傳道局の事業には創立以來助力し、亞弗利加移住及び亞弗利加酒商禁止並に亞弗利加土民解放の事に付て熱心に盡力したる如きは同夫人に就て世人が公けに知所ろなり。此他左の手だに知ざる夫人が秘密なる慈善事業に至りては思ふに必らず倚ほ之よりも多かるべし、享年七十三歲、去十二月六日渓葬す。

○萬國禁酒會議インターナショナル、テムペランス、コンベンション。

濠洲メルボルン府府廳に於て、去年十一月十九日以後廿三日に至る迄、萬國禁酒會の會議ありたり、主も濠洲諸島より委員を出したるが惣數一百七十名ありしと聞こゆ、ゼエームスモンロー氏議長となり日々演說もしくは文章の朗讀ありて、其の廿三日に至り議決せられたる條々の中ち主もなるものは左の如くなり、

濠洲禁酒會(アウストラシアン、テムペランス、ユニアン)は濠洲內にある多くの禁酒會を合むべき事

濠洲禁酒同盟なるものを造り廣く國民に訴ふる事

○都の花の小說家

小說雜誌多き中に、尤も評判好きは「都の花」と「新小說」の二つなるべし、新小說の作者は皆な本名を現はされたれど「都の花」の作者は大抵號を以て稱せらる、其の本名を聞かせよとの投書少なからねば左に聞しまゝを記すになん。或人曰く名を隱すものを現はすは不德にあらずや、吾人曰く否な日本人の號は隱るゝの稱にあらずと。

香亭迂人　中根淑
美妙齋主人　山田武太郎
二葉亭四迷　長谷川辰之介
流鶯散史　谷口政德　(露紅奇緣著者)
學海居士　依田百川
槐堂仙史　安川孝吾
迷花生　中根淑
秋月女史　大島ちよ
藤陰陰士　藤本眞　(新撰小學歷史の著者)
霞亭主人　渡邊　(東京朝日新聞記者)

竹柏園女史　佐々木昌子（佐々木弘綱翁の姪）
嵯峨の屋おむろ　矢崎鎭四郎（元外國語學校ロシヤ語卒業生「守錢奴の肚」、「ひとよぎり」等の著者）
忍月居士　石橋友吉
三昧道人　宮崎璋藏（元東京電報記者　今大坂日報記者）
如電居士　大槻修二
露伴子　幸田
湘煙女史　中島俊子

○皇女常宮の御移殿　客歳御降誕在らせられし皇女常宮は今尙ほ青山御所内梅の御殿に在はせらるゝが今度明宮殿下の赤坂離宮内花御殿へ移らせ給ひしを以て右御殿跡へ移らせらるゝとに決定し不日に御移殿在らせらるゝやに承る。

○東京慈惠醫院　同院にては規模も漸次增進し資金も稍々備はりしに付き今度東隣地及び西側の家屋を取崩し更に病室及び看護婦寄宿所を增築し以て入院患者の望を遂せしめ又完全なる看護婦を養成せんとの目的なりと云ふ。

○慈惠醫院幹事會　は去る廿五日霞ヶ關なる有栖川宮邸に於て貴婦人一同參集し婦人慈善會の件に付き協議會を開かれたる由。

○米國安息日學校　の子供等より婦人矯風會の串田しげ子に金數百圓を送り越し傳道上の事に用ひられんとを委賴し來れり。

○婦人矯風會　は去る二十三日午后二時より日本橋區本兩替町基督教會堂に於て演説會を開きたり當日の辯士は小方仙之助氏及び佐々木豐壽、潮田千勢の兩女子にして頗る盛會なりし由。

○女子の洋行　京橋區木挽町三丁目に寄留する福井縣平民高木義方氏の二女みね子（十六年）は學術研究の爲め六ヶ年間米國に留學致したき旨其筋へ出願せし由。

○德島高等女學校　にては今後技藝科の進歩を助け且つ生徒に貯金をなさしむる目的にて次第に手藝を盛大にせらるゝ由なるが近日試みの爲めシャツ及び靴足袋等を製造せしめ販賣に拂ひ出さるゝとさ云ふ。

○栃木尋常中學校　にては同校内に女子高等普通科を設けられ修業年限は四年にて入學者は年齡十二年以上の女子にして高等小學二年級以上の學力を有するものに限れる由にて來る四月より實施せらるゝとさ云ふ。

○赤十字社支部　を京都に設置するとは既に本社の承認を經て本社より北垣京都府知事へ京都支部長を依托せられたるが去る二十日京都府廳式場に於て社員一同集會し支部規則の制定、役員の撰擧等を爲せし由なるが目下同社員の數は正社員二百四十名、贊助員六十名なりと云ふ。

○長岡婦人會　越後長岡の有志者は婦人會なるものを設立し毎月一回同地の攻玉館に於て開會する由なるが毎回眞宗の僧侶一名づゝ出席して宗教の講話をなすと云ふ。

○正誤　前號禁酒美談の中ち麴町區長の許に趨きたるに矢島楫夫人及び串田しげ子さしたる串田子は竹尾とき夫人の誤りなり。

外報

（此欄内自由に轉載を許す）

○マダガスカルの女王　同女王は當時其近邊に遊説したる彼のレビット夫人に禁酒事業を贊成して金一百弗を送りたり。

○サウリスベリー侯演説　前號にも申したる同侯が六千人の聽衆の前に於て演説したる女子投票權贊成の論中に、左の如き句ありしと聞く、
余は女子が議員を撰擧し國の政界を左右すとに付て分前を取るの日あらんとの甚だ遠からざるを熱心に信ずるもの也、余は女子が此等の權利より退けらるゝ何如なる理由かを知る能はず、其の智識其敎育其の品行等に付て言ふに現に撰擧權を有する男子に劣らざるのみ子甚だ多きとは極めて明白なり、而して現今の如く政治をして道德宗敎の方向に傾かしむるの必要甚しき時代に於ては女子が及ぼす所の感化は尤も大切なるもの也。

○淸國皇帝の婚姻　兼て記載したる如くにて、去廿六日は淸國皇帝いよ〳〵大婚の禮を擧げ玉へり。

○女子佛國學士會院の賞牌を得　去る十二月二十四日佛國學士會院年會に於てボルデン賞牌は固躰運動の學理を進めたる爲めに瑞典國ストックホルム大學校敎授ソフヒヤ、コフアレフスキー婦人（一千四百五十八年より九十年まで伊太利國王なりしマチアス、コルフヒヌスの後胤なりと云ふ）に授與したりと子ーチユウアに見ゆ（東洋學藝雜誌第八十九號）

小供談

本號餘白に乏しく此の欄を省く

第百四十五號（心の浮畵）の正誤

十八ページ上八行	言ふたるか	は	なるか
仝　下八行	されば	は	されど
十九　上十一行	なづるが如し	は	存するが如し
十九　上十六行	恥ち苦	は	恥さ苦
仝　上十八行	隣にも	は	憐にも（あはれ）
二十　上一行	恨めしふ	は	恨といふ（うらみ）
十八ページ上四行	汚贓の痕	は	汚贓（しみ）
仝　上十五行	實に（じつ）	は	實に（げ）
仝　下三行	獨居	は	獨居（ひとりゐる）
十八ページ下十五行	見物師（けんぶつし）	は	見物師（みせものし）
十九　上十九行	寬むる	は	寬むる（なた）
二十　上九行	以來（いらい）	は	以來も（このかた）

脫字　二十　上十二行　居しの下が。の字を脫す

○天下の女子

第一回　ペルシアとモロッコの間に住むマホメット教を信ずる婦人

スヒンチール講述
丸山通一口譯

私しが之より演說するは天下の女子と云ふ事で眞に廣大なる問題である、若し之を精密よ論ずれば幾百千回を重ねても尙ほ足らぬでありましやう。只今其第一回としてお話し致す此のペルシアと云へる國よりモロッコと云へる國に至る迄の間の婦人の事にても、若し少しく細かに申せば迚も一二時間では濟ませぬ、固より此の間の國々に住ふ國民には大ひなる相違ありて、只だ其の人種丈けを擧ても中々に多くあるです、況んや其の敎育の度合などに付て申せば、彼の蠻野なる黑奴より敎育あるカウカサスの民に至る迄で彼此非常の懸隔あるとです、然らば此く迄に違ひしものを如何にして今ま簡畧にお話しするかなれば、即はち此の只一つの纏め方がある、他なし「マホメット教を信ずる婦人」として、之を總括して演述いたすのである。

マホメット教とは宗祖マホメットと云ふ人が開きたる教へでありまするが、此のマホメットなるものは唯一の神の御事を述ぶる爲に特に降生せしめられたる預言者なりと自から宣言して教を擴めたるが、其教は東ペルシアより亞弗利加に渡り、近世に至りては支那にも渡りたる廣大の教へで、此の教の中に前に申したる國々の人民を總括し居るのです。

多妻の事　宗祖マホメットは九人の妻を有し其他に澤山の女奴隷を置て妾としましたが、元來此のマホメット教では男子一人は四人の妻を持とが出來ると許し、而して妾は其上に何

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

人持とも自由ありと許たのである。即ちマホメット教は多妻の主義を許したのであつたが、然し此の主義が實際に行われたるは反つて少なかつた、何故なれば妻を多く持つときは自然に入費が多く掛るから、中以下の社會に於ては自然に一夫一婦となつて、彼の多妻主義が行わるゝは只だ上等社會にのみ限ることとなつた、即はち總ての結婚者の殆んど一割位ひが多妻を持つことであります。

結婚　夫て結婚の仕方は如何かと云ふに、男子の親族等が世話をして嫁を撰むので、固より最初から男女同士が相見るなどのことは出來ぬ、夫のみか嫁の來る時でも全身に冠り物をして來るから本來何のやうなものかと云ふことは余程后でなくては分らぬ、況して其の氣質品行の如きは決して相手が撰むことの出來ぬものである、扨て斯て輿入の后ち一週間ほど祝宴を張り親族などを饗應するの習はせがある。一躰斯様に不十分な結婚で、女に權と云ふものは殆んど無い全く男子の勝手になるやうであるが、然し亦た其國仕來りの習慣と云ふものがあつて男子も亦た之に從わねば成らぬから、其故て自づから女子の上に多少の權利の如きものが出て來るです、即はち夫は妻の爲に幾人の侍女を置かねば成らぬ、何如やう〳〵なる食物を供へねば成らぬ等の事は習慣として定まつて居るから夫は堅く之を守らねば成らぬのである。且つ又たマホメット教の敎ゆる所に由るも元來男女は相ひ結婚すべきもので而して其婚緣は成るべく一世を終るべきものとせらるゝことであるが、然し實際には其の敎へが行れず、夫もし妻を好まざるに至れば何時にても之を歸すことが出來るのである、そして又た離緣せられたる婦人も彼の印度の女の如く再婚することは出來ぬとか又は夫の死せるときは共に燒殺ろさるゝと云ふやうな事は決してなく、矢張り再たび他に嫁しても差支へないです。況んやマホメット教の旨趣によれば凡そ離緣には相當の理由がなければ成らぬです、然し之も決して貫徹したる主義でなくて、夫もし去ると云ふ時は之が即はち既に有力なる理由となるので、此の言渡しを受けたる妻は即刻に歸り去らねば成らぬ決して猶豫躊躇することが出來ぬのです。然し若一時の腹立で急ぎ離緣したることがあれば夫は亦た思ひかへし之を呼もどすことが出來るので、即はち固より妻より之を要求するの權利は毛頭ないが、夫は三ケ月以内には再たび妻を招きかへすことを得るです。

女奴隷　マホメット教の敎へに於ては奴隷と云ふことを禁じて

はあるが實際には反つて盛んに行われて居る、數年前私しが此の國々を巡歴したるときに、尤も目に附たるはワニス及びコンスタンチノープルの邊で、其處ではエネーバザール（Enebasar）と云ふ奴隷を賣る勸工塲のやうなものがある、此處に賣出されたる女は胸に札を着けて居る、すると肥つた粗々しい土兒其人が大聲で、ハイ之は何處〳〵のもので容量は何如がであると云ふやうなことを叫んで居る、而して其女も亦た平氣で反つて得意らしひ媚を呈して居る。一躰此等の女はカーカズース（通例カウカサスと云ふ Kaukasus）の地方の人でタターレン（Tataren）及びレスギール（Lesghier.）又はグオルギーン（Georgien.）及びチエルケッセン（Tscherkessen.）等より奪ひ來られた少女である、固より其外にアバッセン（Abassen）オッセーテン（Osseten）は固より往々ロシア人等も亦た斯くして奪ひ去らるゝことであるが、總べて皆な大抵チエルケッセンと名前にして彼の市塲に連れて來られるのである、之はチエルケッセン人が特に美くしてチエルケッセンと云へば殆んど美人と云やうに思はれるから即はち何にも此の名を用ゆるやうに成つたのであらう。扨て斯くして連れて來られたるものが既に申す如く決して愧ずる所ろなく却つて喜色満面の躰で居るのは、之は都に出でゝバイ（Bey.）即はち副王と云ふか又はアーガ（Aga.）即はち大名と云ふやうなもの、ハーレム（Harem.）に買はれて行き、此處に華美なる生涯を怠けて送らんと欲するが故に、即はち斯樣に憫れむべきの笑ひを呈するのである。

ハーレム宮中女奴隷　扨て斯くして女奴隷に買はれてハーレムに行くのであるが、私しは此のハーレムに在る婦女子が太層に肥滿なるを見て不思儀に思ひ、ツーニスに行きたるとき其の土地の事情に通ずる人に聞て見ました所ろが、其人の申すには、凡そ婦人の肥滿したるは土兒其人民の嗜好に適するのである、夫故へ肥滿と云ふは恰かも美麗と云ふと同じやうなるものだから、彼の女奴隷を賣るには先づ之を肥滿せしむると云ひます、其の肥滿さする法とは、其の女を暗室に入れ身動できもさせないやうにして置いて而して躰だの肥になるやうな食物を與ふるのだと申します。扨てハーレムと云ふ所ろは實に面白ろい樂しい所ろであらうと或はお考へなさる方もありましやうが、其實なか〳〵左樣でない、女も固より非常の苦しみを受るが、然し亦た此の女を撰く所ろの男子も決して滿足することが無いです、實にハーレムの男子が此如き女

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

子に向つて滿足の出來ぬは當然の事であらう、此の女原は元來一箇の文字をも知らず、他に何の爲す事をも知らず、只だ白粉紅脂を着るを以て最大無上の樂しみとし仕事とするのである、若し其他に仕事がありとせば、即はち僅かの手仕事であらう、其外は菓子を食ふことゝ、コヒーを飲むことが自分で出來れば、夫れが先づ大相な仕事であるのです、故に斯る女子に向つては男子も亦固より滿足ある樂しみを受ることが出來ないのであります。扨宮中の樣子を人から承はるに宮中では女を多く供ふるが爲に入費も多く、邪推も多く、色々の不都合の多きゆゑに、土其兒帝イブラヒム、第一世一千七百四十七年に皇后を娶られたる后は、代々のズルタン(土兒其帝の事なり)が正當なる皇后を置たることはありません、只妾と云ふべきものがある計りです、然るに其の妾の數は亦た莫大なもので、等級の第一はカヂン(Kadin)第二はヂヂックリス(Gediklis)第三は女奴隷五百乃至六百人である、或は亞細亞亞弗利加及び歐羅巴より來た人が往々カヂン(皇妃)を稱してズルターユン(Sultanin)(皇后)と稱ふれども實は誤まりにて眞成の皇后存在ましまさぬなり。

ハーレム宮中の區劃　此のハーレムはハーレムリック即はち女室(Haremlik)、セーラムリク即はち男室(Selamlik)より成り居るが、ハーレムの内には主人と其女奴隷の外は決して出入することが出來ぬ、只だ祭禮の時などに里家より親や兄弟の尋ね來る時のみは他人に面會することを許さるゝです、然し其他の人にして若し此處に立入ることあらば其人は乍ち頭と胴とを別にさるゝことを覺悟せねば成らぬ、然し男子にして此ハレームの中に出入することが出來るものが只だ一人ある、即はち男の醫者です、然し此の男醫者がハーレム内に入るときは是非其妻を伴なはねば成らぬ、又侍女若干人之に從はねば成らぬと定まつて居る。而して此の醫者がハレーム内の女の脈を見るときなどは先づ其の手の上に紗の如きものを掛けて而して其上より脈を取つて見るのことです。ハーレムの内より外を眺むることは出來ぬが、窓に引ちがへの戸の樣なものがある、人の來ぬときは之から外を眺めて居り、人の足音がすると乍ち此の戸を閉づるのであります。斯る勢ひなれば外に出ることは無論甚はだ稀れであるが其の出るときには頭まより面白き被物を冠りたゞ目丈けを出し極めて面白き風をして步行して行くです、其の圖は前に揭げて在る通りで其のかくし方は身分の上下に由つて違ふので、其被ふといよ〳〵

綿密なるほどを以て地位の高きしるしと爲すと云ふ。斯樣なるもので路上を往來して居ることゆへ吾々は時々思はずツッキ當ることがあるです。私しはツーニスにて道を歩くときに、後より來りて觸はるものがあるから何かと振反りて見ると例の婦人です、若し其の時「甚だ失禮を致しました斯くと知らば避く可りしを」などとても言へば却つて甚はだしき失敬に當るのです、即はち言葉を掛るのが無禮となるのです。又た私しは或る時婦人の通行するのを、見て居りましたらば巡査が來て衝き飛ばし「左樣に見ては成らぬ」と叱られました、斯樣に包み隱した婦人ですら見ることが出來ないのであります。夫故私しが荒比亞に居ましたときは多くの人と交際はしましたが決して其の人の御家内の事を尋ねませんでした、實に他人に向つて其の人の細君や子供の事を問ふときは、其人は恰かも劒を胸に突き刺れたるほどに無禮なりと感ずるものであります。」如此き風習あればハーレム宮中の樣子をも十分に尋ね知ることが出來ません、何人と云へども決して之を承知することが出來ぬのであります、然し私しは之を承知するに付て多少の便を得ましたと云ふ譯は、此の宮の皇女アスマと云へるが嘗て歐洲人を見たいと仰せ出されて或る外交官の婦人を案內することに成りました、扨て宮殿は前にも申した如く女宮男宮の二つに分れて居るが彼の皇女の居らるゝ所ろはハーレムリツリ即はち女宮の方です、此時彼の外交官の婦人は先づ外殿に至りしに外殿の監督を爲す婦人が之を伴ない行きたり、少し行くと男子(閹官の類)が守り居る鐵門あり第三番目にも亦た鐵門ありき、之を開かれて這入れば二人の家來ありて白き杖を携へ番してあり、先づ內に走り入りて來客ある由を告ぐ、婦人は客室に至りて相待つ內に、內殿の監督を爲す婦人キヤガブン(Kiayakaven.)之を皇女に告げたり、暫らくすると皇女出でまして格子の內よりお遇あらんとするゆへ是非內に入りて御面會したしと言張りしかば即はち許されて這入りたり、室內は美麗に錦繡を以て飾られ皇女は安らかに自由椅子に椅りて居ましたり。

さてお話しを變へて申しますが、日本の生糸が貿易上大切の地位を占て居るとは諸君も既に御承知の事なるが、此の貿易品は多くは前に申したトルコのハーレムに行くのであると申したらば諸君は定めし不審に思はるゝでありましやう、然し實際に左樣なので即はち生糸が佛國のリヨンにて織られて而して彼のハーレムに行くのである。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

前にかへり、此時彼の外交官の婦人は少しの間だ言葉を交へましたが未だ十分に四方を見廻はしもせぬ中に早や導かれて外に出されました。之に聞くに此の内殿には六十人の女奴隷ありてキアヤカヅン(Kiaya Kadun)に屬する美しき宮園にて音樂舞踏競走等の興を添へ饗應を致しくれたのヿです。私しもコンスタンチノープルの獨乙及佛國の領事に伴はれて只一度ハーレムに參觀しました。

妻母の地位　此邊にては一家の妻と申ても固より主婦たるにあらずして姑(夫の母)の娘分である、併し乍ら只一つの善き風と稱すべきは兩親を尊とぶとの切なるヿあり。夫も母を尋ぬるときは夫婦ともに立ち居つて決して座しません、母が座せよと云へば夫は則ハち座するヿあり妻は左あるとも尚ほ立つて居るのです。女がハーレムにて毎日仕て居るヿは日本にて言へば先づ朝より晩まで眠たり起たりすると云ふやうなもので何もしません、只だ其の一つの爲す所ろは遊び事であるが子供の敎育と云ふも殆んど亦た遊び半分である、夫故へ子供を敎へねば成らぬと云ふやうなヿは決して思ハず、只だ草木の育つやうに放つて置けば善いと思つて居ます、其外は毎日モッカ(Mokka 飲料)を飲み菓子を食ふのです、其故へ費用特の外に多く掛るのです、左れば此のハーレムの女の所行を一言にて評すれば何も爲ぬと云ふケフ(kef)と云ふ語にて盡されましやう。

此のハーレムの事は先づ之れ丈けといたし時間が有ませぬゆへ、他のマホメット敎を信ずる國々の婦人の有樣を大畧に述ましやう。

ペルシア　先づ東端のペルシアなる國は、昔しは盛んなる國でありましたが今は衰へて亦た振ハず、マホメット敎の敎ゆる所ろすら守りませぬ、然も多妻離縁ハ通例の事で甚しきは妻を交換するヿあり、女子の權人間の位と云ふはないほどです、實に下等の極でありますから、或る法律家の娘にてカスヰンに生れたるグルレト、ウル、アイン(Gurret ul Ain)と云ふが之を慨き、習慣を脱出して公衆に向つて演説し、女子は決して猥りに離縁せらる可らず、多妻は可成く之を廢すべし、女子が不思議なるものを冠るヿを止め又たハーレムに入るヿを許す可らずと論じたり、之れ實に時弊に中れる名論ありしに政府と人民とは上下ともに此の新意見に反對し遂に吏を遣ハして之を捕へました、シア申渡すには若し其說を止れば宜しひが、苟くも說を變へぬとならば決して容るさずと宜

廣告

生徒募集

今般本科專科共通學及寄宿生ヲ許ス且學科目ハ和漢文英學習字詠歌經濟衛生理學數學育兒家政茶湯簿記博物圖畫和洋裁縫編物等ナリ志望ノ者ハ至急申込アルベシ

牛込區下宮比町十三番地

私立 **開知學舍女子部**

●産婆生徒募集

本月十二日より初等生授業候に付き五十名限入學を許す

日本橋區矢ノ倉町十二番地櫻井郁内

私立 **東京産婆學校**

六合雜誌

第九十八號

明治廿二年二月十六日發行

目録

○英國の諸教徒……	宮川經輝
○佛教衰廢の原因……	小崎弘道
○基督教の眞理を講求するの法……	山田寅之助
◎基督は實に奇跡を行ひしや否を論ず……	伊勢時雄
◎宗教の事ますます盛ならんとす	高橋五郎

●雜記（）神智協會と米人オルコット氏○社會學と保守主義○日本○廣告○一冊金八錢○半ヶ年分四十三錢○全國一般無税送料

東京々橋區加賀町十一番地

警醒社

二月二十三日（第一土曜日）午後一時より神田一ッ橋外高等中學校構内大學講義室に於て本會の總會相開き候間會員諸君は勿論他の姉妹も御朋友御誘引御來會の程を希望致し候

當日の講師左の如し

長與專齋先生（演題未定）

坪井次郎先生（腐敗ノ説）

京橋區日吉町八番地

私立 **大日本婦人衛生會**

中年の婦人

に家事の傍讀書算術の初歩を授けんが爲め本舍を設け教授は極て懇切を主とし三月十六日より晝夜授業す入學志願者は十四日迄に申込あれ但書名丈は束脩を要せず尙郵券貳錢お送あれば規則を呈す

麹町區富士見町貳丁目參拾七番地

私立 **婦人實用學舍**

交詢案内

（郵券十錢送れ／催促する勿れ／委細に申來れ）

●雇はれたき方（乙）

六	奉公	地方師範學校卒業生にて學資に困むに就ては或西洋人宅にて小兒協力の小間使に雇はれたき娘なり無給にて何地にてもよろし
七	裁縫	年齢廿三にして家内の手助けとならんが爲め人様に裁縫に雇はれ度き者あり華族様か御家ならば大家のかたき内にて裁縫ならば通いても宜しとの事其他ハンケチーフのふち縫の如きにても宜し
十三	教師	栃木縣々立師範學校の卒業生にて何處かの學校或は他の御内にても教員に雇はれたきものあり可成くば麹町か駿河台邊を望む
十四	洋行	身は健なる十八歳位のものにて英語も可なり出來るものにて學問研究の爲め貴婦人の歐米に航せらるゝ御方の小間使ひとなりて渡行を願ひたし
一九	召使	裁縫の教授を助けし其他女子學校等監督舍監等の者に雇はれたし
二〇	裁縫	年齢十四五才にて華族様か或官員方の御方之内ゟ小間使に雇はれたし且も餘暇に裁縫を授けくだされば給料は不申受
二四	奉公	年齢廿二才にして一と通り裁縫もいたし氣質の生れつきにて華族方か中以上の官員方へ中働きに奉公いたし度し給金は望聞以上に願ひたし
二五	裁縫	裁縫は和服に婦人洋服にて和服にも巧なり學校若しくは華族其他高貴の御内に教師に雇はれたし
二七	召使	年齢十六歳にて仲働き又は小間使に雇はれ度きあり給料は何程にても宜しきに付き編物裁縫等の稽古を致したし

●喜びのめぐみ

十四	學婢	乙第廿六は牛込の某所へ雇はれたり

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

●通信女學講義錄　殘本安賣

通信女學講義錄は一冊大抵六七十枚づゝあり婦親又は妻君が家に在りて女學の一と通りを學ぶの工夫なれば二三年の後は和學、理學地理、歴史、及び子育法、女子生理、家内理學、經濟學などの一班を居ながら學び得べき方法なりしが此度女學雜誌と合併せしに付き從來女學雜誌のみを講讀せられたる方々は中途より講義を聞かるゝ譯にて御不滿足と存じ候に付き一冊二十錢の處大勉强一冊十錢即ち十五冊自一至十五分代郵送料二錢に其定價を減じ

金壹圓五拾錢郵送料三拾錢にて賣拂い申すべし

京橋區日吉町八番地　**女學雜誌社**

同志社の寄附金（二月廿六日迄）

一圓	明治女學校内　吳くみ
四十錢	同　一號室
四十錢	同　四號室
十錢	同　宮高なつ
十錢	同　久保とみ
十錢	同　渡邊やの
十錢	同　石川たか
五錢	同　大橋つぎ
五錢	同　前田とよ
十五錢	同　有志者一人
小計	二圓四十五錢
合計	金十五圓五十五錢也

發兌					
三月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
四月。	六日	十三日	二十日	廿七日	
五月。	四日	十一日	十八日	廿五日	
六月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價

一冊。六錢　郵税。一錢（但府內無郵税）
十冊。五十八錢郵税。十錢（同前）
半年分　一圓四十三錢　府外は　一圓六十九錢
一年分　二圓六十錢　府外は　三圓十二錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁以上の廣告は半頁分毎に十部の料金を要す以上の割合と定む

一行一回（廿七字詰）前金拾錢
同　三回以上一割引
同　六回以上二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す女學に關係ある物の廣告は無代價にて引受く發賣の上は其一部を寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町鍛ヶ堂○同芝西久保櫻川町萬巻堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新右衛門町明堂○同京橋區木挽町[illegible]丁目萬[illegible]宇堂○同本鄉區元富士町濟作堂○同本鄉區春木町二丁目廣明堂○同本鄉四丁目文[illegible]壽堂○橋濟日吉町角田宇直○同太田町三丁目萬[illegible]堂○同日月堂○同本町六丁目日[illegible]の出尾○京都内條通小橋西へ入濟牛光堂○同三條通東洋院內へ入クリスチアンボ[illegible]ド○大阪備後町四丁目園島支店○仙臺國分町上五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙[illegible]數大町木村文助○尾張國古屋本町石版町○出雲國松江新町齒進堂○廣島縣大手町一丁目早遠社[illegible]段畸町[illegible]屋虎號○[illegible]州根西內大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高畸田町燒乎堂○土佐國高知本町三丁目榮團堂○熊本文明堂

明治二十二年二月廿八日印刷
明治二十二年三月二日出版

發行所　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社
編輯兼發行者　東京京橋區日吉町八番地寄留　巖本善治
印刷者　東京芝區源助町十一番地寄留　森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1.69 six months, *yen* 3.12 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tōkyō, Japan.

WASON
HQ
1104
J97+

Mar. 9
1889
[illegible]

女學雜誌

一冊六錢
當府内無郵税

版權所有

各土曜日出版

明治廿二年(第百五拾貳號)三月九日發

社説
文章上の理想

論説
英米女子高等教育大勢(結論)(け、うさき)○再び娼妓の制に關する政府の改革を叙し併せて廢娼の必要を一言す(伴直之助)

批評
歐米婦人之狀態○明治唱歌、いざりび、幼稚の曲

叢話
木常紺君の逸事○女小説家○子供に信實を教ふる事(梶夫人)

小説
理想紳士第六回(月の舍しのぶ)

寄書
文苑(鈴木弘恭大人撰)

新報
產科婦人科研究會月報○帝室に對する大不敬○佛教と女學○令閨○くされ玉子○幸福の解明、確言は洋行し和行す○女學雜誌○日耳曼の女學○萬國婦人禁酒會○女王列次○大隈伯爵夫人○外數件

外報
ベルジカム○フホーセット夫人○英國女子學位○英國大學女教師會○外數件

小供談
幸福を求むる種々ある事

附錄
文學一斑○婚姻說○女子讀本

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY